

宮島の歴史と民俗

HISTORY AND FOLKLORE OF MIYAJIMA

NO. 5

1986

宮島町立宮島歴史民俗資料館

MIYAJIMA MUNICIPAL HISTORY AND FOLKLORE MUSEUM

目 次

○はじめに.....	1
○愛媛県における厳島信仰.....高橋修三.....	2
○資料館の活動.....	19
1. 入館者数.....	19
2. 年度別予算一覧.....	21
3. 資料収集.....	22
4. 調査・研究等.....	27
5. 展示・普及等.....	27
6. 歴史民俗資料館協議会.....	29
7. 施設の整備.....	29
8. 購入図書・受贈交換図書.....	30
○町史のあゆみ.....	35
○宮島町立宮島歴史民俗資料館 吉村氏寄託能楽関係文書目録(続).....永井 猛.....	45

は じ め に

本年度は発刊が少し遅くなりましたが、「宮島の歴史と民俗」No.5をお届けします。年報から紀要の内容をもったものへと改題して、早くもNo.5を数えるほどになりました。その間、徐々にではありますが、内容も充実してきたように思います。このことは、遅々としたものではありません、調査研究活動が着実に歩みつづけている証左と思っています。

今回、調査報告として当館学芸員の「愛媛県における厳島信仰」を掲載しました。厳島信仰に関わる調査は、宮島町の歴史民俗資料館として調査研究の重要な課題だと思います。まだ、緒についたばかりの報告ですが、今後より一層調査を深めてまいりたいと思っています。

また、前号に引きつづき、米子工専永井猛助教授に「吉村氏寄託能楽関係文書目録」(続)を寄稿していただきました。先生の並々ならぬご努力による調査のおかげで、宮島の能・狂言の流れ、特に狂言の全容が徐々に解明されてきました。得がたい玉稿をいただき深く感謝しています。誌上を借りて厚くお礼を申し上げますと共に、引きつづき調査研究の成果をご寄稿下さるよう願っています。

最後に、町史の編さん事業も順調に進み、近く初巻を発刊するはこびとなってまいりました。なお、今回は「町史のあゆみ」の中で「民俗編」の構成、特論編「自然と人間」の構成も示されました。刊行の折はぜひご覧下さるよう願っています。

愛媛県における厳島信仰

宮島歴史民俗資料館

学芸員 高橋修三

本稿は、厳島信仰がどの地域に、いつ頃、なぜ受容されたか等について、愛媛県を対象としてその概要を把握しようとしたものである。

厳島信仰の地域的分布については、厳島神社の分社や厳島講の所在地、厳島神社に奉納された絵馬・灯籠・玉垣等々の奉納者の分布、旧暦6月17日に行われる管絃祭への参拝者や同時期に行われる関連行事の分布、厳島神に係わる伝説の分布など様々な視点・資料により調査が進められ、既に、宮本常一・神崎宣武「生産・生業・交通・運輸・交易」、赤木昌彦「交易(2)」、牛尾三千夫「信仰」(以上『厳島民俗資料緊急調査報告書』1972所収)、志賀剛「厳島神社に対する庶民の信仰」(『神道史研究』第11巻第6号、1963)、『広島県史』民俗編・1978所収の関連論文等が公にされている。

ここでは、愛媛県における厳島神社の分社(全国の分社数は6000ともそれ以上ともいわれる)の所在地を確認する作業を通して、上記の課題の一端に触れてみたい。

なお、この調査にあたって森正康氏(愛媛県臨時県史編さん部)には、資料の提供、所在についての教示等、多大の便宜をはかっていただいた。また、1979年には管絃祭についてのアンケート調査を行い、このことが今回の調査の起点ともなった。森氏ならびに回答を寄せていただいた市町村各位に厚くお礼を申し上げたい。

愛媛県における厳島信仰の分布

愛媛県内の厳島神社の分社等については『愛媛県神社誌』(1974)によってその所在地を知ることができるが、ここでは、明治期の神社合祀以前の状況を、主に明治4年(1871)に宇摩郡外15郡にわたって調査、書上げられた「神社明細帳」(愛媛県立図書館蔵)を基に、明治以前の関連資料と比較検討しながら明らかにしていきたい。

なお、愛媛県における神社合祀は、明治40年～42年(1907～09)をピークに積極的に進められ、それによる神社の合祀率は70%、全国第3位であったが、形式的な合祀例も多く、その後、村落共同体の精神的紐帯として復祀された事例もあるといわれる(『愛媛県史』学問・宗教 1985)。

以下においては、厳島神社の分布についての表・図、次いで旧暦6月17日を中心に行われる十七夜祭などの関連行事の表を掲げるが、典拠資料及び参考文献は次の通りである。

1. 伊予国松山領神社帳 宝暦年中(1751～63)
2. 今治領内寺社明細言上書 貞享2年(1685)
3. 大洲藩御領中神社改 宝暦10年(1760)
4. 周布郡社号帳 正徳6年(1716)
5. 野間郡寺社根方帳 天明年度(1781～88)
6. 風早郡寺社根方帳 天明年度(1781～88)

7. 宇和郡神明記 宝暦10年 (1760)
8. 周布郡寺社堂庵帳
9. 西条誌 天保13年 (1842)
10. 小松邑誌 万延元年 (1860)
11. 大洲秘録 元文5年～寛延4年 (1740～51)
12. 大洲旧記 享和元年 (1801)
13. 大成郡録 宝永3年 (1703)、宝暦7年 (1757)
14. 愛媛面影 幕末期
15. 神社明細帳 明治4年 (1871)
16. 神社神明帳 明治6年 (1873)
17. 越智郡村々神社明細帳 明治4年 (1871)
18. 桑村郡神社明細帳 明治4年 (1871)
19. 予陽郡郷俚諺集 宝永7年 (1710)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| a. 伊予三島市史 上巻 1984 | i. 三瓶町誌 1983 |
| b. 西条市誌 1976 | j. 宇和町誌 1976 |
| c. 弓削町誌 1986 | k. 吉田町誌 上巻 1971 |
| d. 新編温泉郡誌 1916 | l. 三間町誌 1964 |
| e. 松山市誌 1962 | m. 愛媛県の地名 1980 |
| f. 面河村誌 1980 | n. ふるさと年中行事調査報告書 1974 |
| g. 双海町誌 1981 | o. ふるさとの歳時記 1981 |
| h. 保内町誌 1973 | p. 愛媛県民俗地図 1982 |

また、表1については、典拠とした資料の記載が区々であったため便宜上必要と思われる項目のみを設けており、表作成にあたっては、大凡次の様式に従って記載した。

地名 資料に記されている地名、旧地名を掲げた。

現在 現行の地名。原則として大字まで記した（地名・現在の欄は『愛媛県の地名』を参考にした）。

社名 原則として年紀の古い資料のそれに拠った。

祭神名 年紀の古い資料に拠ったが、記載のない場合は新しい資料のそれを記した。

相殿・摂末社等 原則として年紀の古い資料に拠り、資料に記載されているまゝを記した。

祭日 年紀の古い資料に拠ったが、記載のない場合は新しい資料のそれを記した。

沿革 勧請年代について資料にあるまゝを記した。空欄は記載のないものである。

出典 上記の資料・文献の数字及び記号。

備考 複数の出典に拠るもので異なる点、その他、必要と思われる事項について記した。

なお、表中、筆者の推定に拠るものについては（ ）を付した。また、厳島信仰との直接の関連について検討を要する神社も若干あるがこれらも採録している。

表 1. 愛媛県内の厳島神社

〔宇摩郡〕									
番号	地 名	現 在	社 名	祭神名	相殿・摂末社等	祭 日	沿 革	出 典	備 考
1	宇摩郡畑野村	土居町畑野	弁才天					9	小祠
2	宇摩郡入野村	土居町入野	弁才天		境外末社			9	
〔川之江市〕									
1	宇摩郡川之江村	川之江町	厳島神社		末社			16	
2	宇摩郡川之江村	川之江町	厳島神社		末社			16	
〔伊予三島市〕									
1	宇摩郡平野山村	金砂町平野山	厳島社		末社			16	村社
2	宇摩郡大町村	豊岡町大町	厳島神社					16	
3	宇摩郡 (中之庄)村	中之庄町	伊都岐島神社		末社			16	
4	宇摩郡 (中之庄)村	中之庄町	厳島社		末社			16	
〔新居浜市〕									
1	新居郡下泉川村	下泉町	厳神明神					9	寺境内
2	新居郡大島浦	大島	厳島明神		(境内)末社			9・15	
3	新居郡黒島	黒島	厳島社		末社			15	
4	周布郡萩生村	萩生	厳島大明神		末社			10	
5	新居郡宇高村	宇高	瀛津神社	市杵島姫命				15	
6	新居郡多喜浜	多喜浜	湊明神社	市杵島姫命 田心姫命 湊津姫命		9月4日・5日	享保2年勧請	9・15	
〔西条市〕									
1	新居郡兎之山村	兎ノ山	厳島社		末社			15	小祠、寺境内
2	新居郡兎之山村	兎ノ山	厳島社		末社			15	
3	新居郡 藤之石山村	藤ノ石	厳島社		末社			15	
4	新居郡大町村	大町	厳島明神		相殿			9	
5	新居郡明神木村	明神木	厳島		合祀			9	
〔周桑郡〕									
1	桑村郡田瀧村	丹原町田瀧	市杵島社	市杵島姫命 田心姫命 湊津姫命	合祀	(11月9日)	勧請年紀不詳	1・15・18	18では摂社
2	周布郡池田村	丹原町池田	市杵島		末社	6月17日		1・4・8 ・10・15	
3	周布郡長野村	丹原町長野	市杵島明神	市杵島姫命 田心姫命 湊津姫命		6月17日	勧請年紀不詳、初代神主元龜3年没	1・4・8 ・10・15・16	16では末社
4	周布郡白坂村	丹原町白坂	市杵島					1	
5	周布郡今井村	丹原町今井	厳島社		(合祀)			15	
6	桑村郡古田村	丹原町古田	厳島社		合祀			15	
7	周布郡新屋敷村	小松町新屋敷	厳島社		末社			16	
〔東予市〕									
1	周布郡周布村	周布	市杵島社		摂社			15・16	
2	周布郡周布村	周布	市杵島社		末社			15・16	
3	周布郡周布村	周布	市杵島社		末社			15・16	

4	周布郡三津屋村	三津屋	弁才天社	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命	末社	9月13日	勸請年紀不詳、明治3年 厳島社と改号	4・8・15 ・16	
5	周布郡北条村	北条	厳島社		末社			16	
6	桑村郡壬生川村	壬生川	市杵島社	田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命	末社	6月17日	天正3年11月 初申日勸請	1・10・18	18では摂社 ・同座

〔越智郡〕

1	野間郡浜村	菊間町浜	厳島明神			8月20日		1・5	村氏宮
2	野間郡松尾村	菊間町松尾	厳島明神社		(境内末社)	6月17日		5	
3	野間郡佐方村	菊間町佐方	厳島明神			6月17日		5	小社
4	野間郡新町村	大西町新町	厳島宮	多岐都毘売命、狭依毘売命、多紀理姫命		9月13日	勸請年紀不詳	1・5・15	村氏宮、15では境外摂社
5	野間郡別府村	大西町別府	厳島社		境内小社	6月17日		5	
6	野間郡波方村	波方町波方	厳島社		境内小社	8月18日		5	
7	野間郡波方村	波方町波方	厳島明神			8月18日		5	
8	野間郡森上村	波方町森上	厳島明神			9月11日		5	
9	越智郡宗方村	大三島町宗方	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日	文安5年6月 勸請	1・17	
10	越智郡宗方村	大三島町宗方	厳島社	沖津島姫命	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳	17	
11	越智郡口惣村	大三島町口惣	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日	寛永元年6月 勸請	1・17	
12	越智郡野々江村	大三島町野々江	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日	承応2年6月 勸請	1・17	
13	越智郡明日村	大三島町明日	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日	勸請年紀不詳	1・17	
14	越智郡大見村	大三島町大見	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日	宝暦5年11月 勸請	1・17	
15	越智郡肥海村	大三島町肥海	厳島	市杵島姫命	末社	6月17日		1・17	
16	越智郡宮之浦村	大三島町宮浦	厳島神社	市杵島姫命	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳	15	
17	越智郡台村	大三島町台	厳島社		境外末社	6月17日	宝暦2年6月 勸請	15	
18	越智郡宗方村	大三島町宗方	宮布神社	市杵島姫命	境内末社			15	
19	越智郡盛村	上浦町盛	厳島	市杵島姫命	境内末社	9月9日	勸請年紀不詳	1・17	
20	越智郡井之口村	上浦町井ノ口	厳島	市杵島姫命	境内末社	6月17日	勸請年紀不詳	1・15・17	
21	越智郡瀬戸村	上浦町瀬戸	厳島社	市杵島姫命	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳、旧号弁財天社、明治3年改号	17	
22	越智郡甘崎村	上浦町甘崎	五十鈴社	市杵島姫命	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳、旧号太神宮、明治3年改号	17	
23	越智郡岩城村	岩城村	厳島社	市杵島姫命	境外末社	9月9日	勸請年紀不詳	1・17	
24	越智郡岩城村	岩城村	浜厳島社	市杵島姫命	境外末社	1月23日	勸請年紀不詳、旧号弁財天社、明治3年改号	17	
25	越智郡生名村	生名村	厳島	市杵島姫命 月読命、蛭子	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳	1・17	
26	越智郡鶴島	宮窪町鶴島	厳島		末社	6月17日		1	
27	越智郡宮窪村	宮窪町宮窪	厳島大明神		末社			2・16	
28	越智郡畑寺村	玉川町畑寺	厳島明神				朱雀院の時勸請	2	
29	越智郡高野村 大飼	玉川町高野	厳島大明神宮		末社			2・16	
30	越智郡御厩村 間山	玉川町御厩	厳島社		末社			16	
31	越智郡長谷村	玉川町長谷	厳島明神宮		末社			2・16	

32	越智郡竜岡上村	玉川町竜岡上	厳島社		末社			16	
33	越智郡竜岡村	玉川町竜岡下	天神宮					2	「天神宮脇之御室に(厳島大明神)神体有」
34	越智郡中村下善	玉川町中村	厳島明神					2	
35	越智郡法界寺村	玉川町法界寺	厳島社		末社			16	
36	越智郡桂村 手洗水	玉川町桂	厳島社		末社			16	
37	越智郡鍋地村	玉川町鍋地	厳島社					16	
38	越智郡上弓削村	弓削町上弓削他	厳島大明神		末社			2・16	
39	越智郡佐島村 四坂	弓削町佐島	厳島明神		末社			2・16	
40	越智郡魚島	魚島村	厳島社		末社			2・16	
41	越智郡朝倉 中村	朝倉村朝倉北	厳島大明神		末社			2・16	
42	越智郡朝倉上村	朝倉村朝倉上	厳島明神		末社			16	
43	越智郡本庄村	吉海町本庄	厳島大明神		末社			2・16	小宮
44	越智郡仁江村	吉海町仁江	厳島大明神		末社			2・16	
45	越智郡福田村	吉海町福田	厳島明神		末社			2・16	
46	越智郡有津村	伯方町有津	矢崎厳島明神					2	
47	越智郡北浦村	伯方町北浦	厳島		合社			16	
48	越智郡岡村	関前村岡村	厳島社	市杵島姫命	境内末社	6月17日	宝暦12年7月勸請、旧号弁財天社、明治3年改号	17	
49	越智郡別府村	大西町別府	弁天			6月17日		5	小社
〔今治市〕									
1	野間郡高部村	高部	厳島宮	多岐都姫命、狹依毘売命、多紀理毘売命		9月3日	勸請年紀不詳	1・5・15	15では境外摂社
2	野間郡来島村	来島	厳島神宮			6月17日		1・5	5では三鬼神とある
3	野間郡阿方村	阿方	厳島大明神		(境外摂社)	9月13日	勸請年紀不詳	5・15	
4	野間郡波止浜町	波止浜	厳島宮	多岐都姫命、狹依毘売命、多紀理毘売命	境内小社	6月17日		5	
5	野間郡宅間村	宅間	厳島明神		(末社)	9月13日		5	
6	野間郡宅間村	宅間	厳島明神		(末社)	9月13日		5	
7	野間郡野間村	野間	厳島明神		(末社)	9月12日		5	
8	野間郡山路村	山路	厳島明神			9月12日	もと庄屋の祀る小祠であったが、天明以前氏神となる	5・15・m	村氏宮
9	越智郡新谷村	新谷	厳島神社		末社			16	
10	越智郡中寺村	中寺	厳島社		末社			16	
11	越智郡桜井村	桜井	厳島社		末社			16	
12	越智郡宮ヶ崎村	宮ヶ崎	厳島社		末社			16	
13	越智郡上神宮村	上徳	厳島社		末社			16	
14	越智郡大浜村	大浜	厳島神社		末社			16	
15	越智郡石井村	石井町	厳島大明神		末社			16	
16	越智郡日吉村	南・中・北日吉町、他	厳島大明神					2	村氏神
17	越智郡室屋町	室屋町	厳島大明神					2	寺付
18	越智郡日吉村	宮下町	姫坂神社	市杵島姫命				14・19	式内社

〔北条市〕									
1	風早郡善応寺村	善応寺	宮島宮					1・6・15	15では合祀
2	風早郡牛谷村	牛谷	宮島宮					1・6・15	15では合祀
3	風早郡中西外村	中西外	弁財天					1・6・15	15では厳島社、合祀
4	風早郡庄府村	庄府	弁財天					1・6・15	15では厳島社、合祀
5	風早郡上難波村	上難波	厳島					6・15	15では合祀
6	風早郡久保村	久保	厳島明神					6・15	15では合祀
7	風早郡鴨之池村	鴨之池	厳島明神	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命		9月14日	勸請年紀不詳	6・15	15では末社
8	風早郡磯河内村	磯河内	厳島社	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命		9月3日 (中古8月21・22日)		6・15	15では合祀
9	風早郡小川村	小川	厳島大明神					6・15	15では合祀
10	風早郡西谷村	西谷	厳島宮					6・15	15では合祀
11	風早郡本谷村	本谷	厳島宮					6・15	15では合祀
12	風早郡大河内村	大河内	厳島明神					6・15	15では合祀
13	風早郡横谷村	横谷	厳島大明神					6	
14	風早郡北条村	北条	厳島社	市杵島姫命	境外末社	6月18日	勸請年紀不詳、旧号弁財天社、明治3年改号	15	
15	風早郡辻町村	辻	厳島社		合祀			15	
16	風早郡才之原村	才之原	厳島社		合祀			15	
17	風早郡米之野村	米之野	厳島社		合祀			15	
18	風早郡安岡村	安岡	厳島社		合祀			15	
19	風早郡八反地村	八反地	厳島社	市杵志麻姫命、多岐津姫命、田心姫命		10月15日	河野氏の創建	6・d	
〔温泉郡〕									
1	風早郡恕和村	中島町元恕和	厳島社	市杵島姫命、大国主命	末社	6月17日	勸請年紀不詳	3・15	
2	風早郡野忽那村	中島町野忽那	厳島社	三女神	合祀	9月3日 (中古9月15日)		15	
3	風早郡長師村	中島町長師	厳島社		(合祀)	6月17日	勸請年紀不詳	15	
4	風早郡宮野村	中島町宮野	厳島社	市杵島姫命	(境外末社)	6月朔日	勸請年紀不詳、中古弁財天社、明治3年改号	15	
5	風早郡神浦村	中島町神ノ浦	厳島社	市杵島姫命	(境外末社)	6月17日	勸請年紀不詳、中古弁財天社、明治3年改号	15	
6	風早郡吉木村	中島町吉木	厳島社	三座	合祀			15	
7	風早郡吉木村	中島町吉木	厳島社	一座	合祀			15	
8	風早郡二神村	中島町二神	厳島社	三女神	合祀	9月3日 (中古9月19日)		15	
9	風早郡二神村	中島町二神	厳島社	三女神	境外末社	9月3日	勸請年紀不詳	15	
10	風早郡二神村	中島町二神	厳島社	市杵島姫命	境外末社	9月3日	勸請年紀不詳、中古弁財天社、明治3年改号	15	
11	風早郡忽那村	中島町 (野忽那)	厳島社	市杵島姫命	境外末社	6月17日	元文元年勸請、中古弁財天、明治3年改号	15	

12	風早郡津和地村	中島町津和地	厳島社	三女神	境外末社	6月17日	勸請年紀不詳、中古弁財天社、明治3年改号	15	
13	風早郡栗井村	中島町栗井	厳島神社	市杵島姫命	合社	8月18日		15	
14	風早郡小浜村	中島町小浜	厳島社	市杵島姫命		6月17日 8月20日	勸請年紀不詳	15	
15	風早郡元月村	中島町陸月	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	
16	風早郡吉木村	中島町吉木	厳島社	田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命	境内末社	6月朔日	延宝4年勸請	15	
17	風早郡吉木村	中島町吉木	小島社	田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命	境外末社	6月朔日	寿永2年勸請	15	
18	風早郡吉木村	中島町吉木	床浦社	市杵島姫命	境内末社	6月13日	宝暦10年勸請、中古疱瘡神社、明治3年改号	15	
19	風早郡饒村	中島町饒	床浦社	市杵島姫命	境内末社	1月13日	勸請年紀不詳、中古疱瘡社、明治3年改号	15	
20	風早郡吉木・饒岡村持立場島	中島町	厳島社	田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命	境外末社	6月17日	享保18年勸請	15	
21	周布郡滑川村	川内町滑川	厳島社		合祀			15	
〔松山市〕									
1	浮穴郡久谷村	久谷町	厳島明神		末社			1・15	
2	浮穴郡窪野村	窪野町	厳島社		末社			15	
3	浮穴郡窪野村	窪野町	厳島社		末社			15	
4	久米郡平井谷村	平井町	厳島大明神					1	
5	久米郡古川村	古川町	厳島社		合祀			15	1に弁才天あり
6	久米郡土居村北分	北土居	厳島社		合祀			15	1に弁才天あり
7	和気郡高木村	高木町	厳島大明神					1・15	15では合祀
8	和気郡古三津村	古三津町	厳島大明神	田心姫命 市杵島姫命 湍津姫命		8月22日 (中古9月13日)	勸請年紀不詳	1・15・19	氏神
9	和気郡興居島村	(泊町)	厳島社	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命	(合祀)	6月17日	勸請年紀不詳	15	
10	和気郡興居島村	(由良町)	中御前社	市杵島姫命	境外末社	8月13日	勸請年紀不詳	15	
11	和気郡平田村	平田町、内宮町の一部	厳島社	三座				15	
12	和気郡吉藤村	吉藤	厳島社	三座	合祀			15	1に弁才天あり
13	和気郡長戸村	東・西長戸町、鴨川町	厳島社		合祀			15	1に弁才天あり
14	風早郡恩地村	恩地町	厳島社	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命		9月13日	勸請年紀不詳、旧号弁財天社、明治3年改号	1・6・15	
15	温泉郡溝辺村	溝辺町	厳島大明神	市杵島姫命 田心姫命 湍津姫命		9月17日	勸請年紀不詳	1・15	
16	温泉郡南江戸村	南江戸町、南江戸、他	厳島社					1	
17	温泉郡衣山村	衣山	厳島社					1	
18	温泉郡(別府村)	別府町	厳島大明神					1	
19	温泉郡食場村	食場町	厳島大明神	市寸島姫命		9月8日	勸請年紀不詳	1・15	
20	温泉郡水口村	水口町	厳島明神	市寸島姫命	境内末社	8月22日	勸請年紀不詳	15	

21	温泉郡枝松村	枝松	厳島社	市寸島比売命、多紀理比売命、多紀都比売命		9月17日		15	
22	温泉郡小坂村	小坂	倉町社	市寸島比売命		9月15日	勸請年紀不詳 旧号蔵之町社	15	
23	伊予郡余土村 東分	余土東	厳島社		合祀			15	
24	伊予郡垣生村	東・西垣生町	厳島社		合祀			15	
25	浮穴郡	上野町	大宮八幡	市杵島姫命 湍津姫命 田心姫、他 5神		8月15日 (中古8月8日)	勸請年紀不詳	15・19・d	「(略)安芸 国厳島へ参 詣の翌、此 神前より宮 引取次事 社僧証書の 写(略)」 (19)※

〔上浮穴郡〕

1	浮穴郡東明神村	久万町東明神	厳島社		末社			15	
2	浮穴郡入野村	久万町入野	厳島社		(末社)			15	
3	浮穴郡畑野川村	久万町上畑 野川	厳島社		(末社)			15	
4	浮穴郡二名村	久万町二名	厳島神社	田心姫命、 湍津姫命、 市寸島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	
5	浮穴郡大三川村	面河村大味川	厳島社		(末社)			15	
6	浮穴郡大三川村	面河村大味川	厳島社		(末社)			15	
7	浮穴郡黒藤川村	美川村黒藤川	厳島社		(末社)			15	

〔伊予郡〕

1	浮穴郡大久保村	双海町大久保	厳島社	市杵島姫命	末社	8月21日	勸請年紀不詳	3・15	
2	浮穴郡高野川村	双海町高野川	厳島社	市杵島姫命	末社	8月23日		3・11・15	15では相殿
3	浮穴郡上灘村	双海町上灘	厳島社	多紀理毘売命、狭依毘売命、多岐津比売命		9月15日	勸請年紀不詳	15	
4	浮穴郡上灘村	双海町上灘	厳島社	多紀理毘売命、狭依毘売命、多岐津比売命		9月6日	勸請年紀不詳	15	
5	浮穴郡上灘村	双海町上灘	厳島社	多紀理毘売命、狭依毘売命、多岐津比売命		9月6日	勸請年紀不詳	15	
6	浮穴郡上灘村	双海町上灘	市宮社	市杵島姫命		9月20日	勸請年紀不詳	15	
7	浮穴郡出淵町	中山町出淵	厳島神社	大己貴命、 事代主命		9月17日	勸請年紀不詳	15	
8	浮穴郡栗田村	中山町栗田	厳島神社	多紀理毘女命、狭依毘女命、多岐津比女命		6月15日 9月11日	勸請年紀不詳	15	
9	浮穴郡栗田村	中山町栗田	厳島社	多紀理毘女命、狭依毘女命、多岐津比女命	勸請年紀不詳	9月17日	勸請年紀不詳	15	
10	浮穴郡川井村	砥部町川井	厳島社	多紀理毘売命、狭依毘売命、多岐都比売命		6月17日	勸請年紀不詳	15	
11	浮穴郡大南村	砥部町大南	厳島社		末社			15	
12	伊予郡神崎村	松前町神崎	厳島社		合祀			15	
13	伊予郡神崎村	松前町神崎	厳島社		合祀			15	
14	伊予郡鶴吉村	松前町鶴吉	厳島社		合祀			15	

15	伊予郡横田村	松前町横田	厳島社		合祀			15	
16	伊予郡北川原村	松前町北川原	厳島社		合祀			15	
17	伊予郡高柳村	松前町上高柳、下高柳	厳島社		合祀			15	
〔伊予市〕									
1	伊予郡尾崎村	尾崎	厳島社	田心姫命 湍津姫命 市杵島姫命	末社	6月17日	勧請年紀不詳	3・11・15	11では9月17日 「年毎に、芸州厳島より鹿来り、夜又帰るといふ。常に知る者なし。安永の比より後、三度見るもの有り。」(12)
2	伊予郡森村	森	厳島社	田心姫命 湍津姫命 市杵島姫命	末社	6月16日	勧請年紀不詳	3・11・15	
3	伊予郡下吾川村	下吾川	厳島明神	田心姫命 湍津姫命 市杵島姫命		6月17日	勧請年紀不詳	12・15	
4	伊予郡上野	上野	厳島神社	田心姫命 湍津姫命 市杵島姫命		6月17日	文明8年勧請	15	
5	伊予郡三秋村	三秋	厳島大明神	多紀理毘売命、市杵島比売命、多岐都比売命		9月17日	勧請年紀不詳	15	
6	伊予郡上三谷村	上三谷	厳島社	多紀理比売命、多岐都比売命、市杵島比売命		6月17日	勧請年紀不詳	15	
7	伊予郡上三谷村	上三谷	厳島社	多紀理比売命、多岐都比売命、市杵島比売命		11月15日	勧請年紀不詳	15	
〔喜多郡〕									
1	喜多郡豊茂村	長浜町豊茂	厳島社	市杵島姫命	末社	9月17日	勧請年紀不詳、旧号弁天社	3・15	
2	喜多郡櫛生村	長浜町櫛生	須沢厳島社	市杵島姫命	末社	9月13日	勧請年紀不詳	3・15	
3	喜多郡下土谷村	長浜町穂積	厳島社		末社			3	
4	喜多郡下須戒村	長浜町下須戒	厳島					19	
5	喜多郡出海村	長浜町出海	厳島神社		摂社			15	
6	喜多郡大瀬村	内子町大瀬	厳島社	市杵島姫命		9月14日	勧請年紀不詳、旧号弁財天	15	
7	喜多郡大瀬村	内子町大瀬	厳島大明神	市杵島姫命		9月14日	勧請年紀不詳	15	
8	浮穴郡石畳村	内子町石畳	厳島社	多紀理毘女命、狭依毘女命、多岐津比女命		6月15日	勧請年紀不詳	15	
9	喜多郡名荷谷村	肱川町名荷谷	厳島社	市杵島姫命		9月28日	勧請年紀不詳、旧号弁財天	15	
10	喜多郡中居谷村	肱川町中居谷	厳島社	市杵島姫命		11月25日	勧請年紀不詳、旧号弁財天	15	
〔大洲市〕									
1	喜多郡手成村	手成	広岡厳島社		末社			3	

2	喜多郡春賀村	春賀	厳島社	三女神	末社	9月18日	勸請年紀不詳、神官元禄年間より神職奉仕	3・11・15	
3	喜多郡阿蔵村	阿蔵	厳島社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	
4	喜多郡米津村	米津	厳島社	多紀理毘売命、狭依毘売命、多岐都比売命		9月22日	勸請年紀不詳	15	
5	字和郡平地村	平野町平地	厳島社	三女神		6月16日	勸請年紀不詳	15	7・13に弁財天社あり
〔西字和郡〕									
1	字和郡伊方浦川永田浦	伊方町川永田	厳島神社	三女神		9月5日	勸請年紀不詳	7・15	
2	字和郡伊方浦河内浦	伊方町河内	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	7・15	
3	字和郡二見浦	伊方町二見	厳島大明神					7・13	
4	字和郡伊方浦中浦	伊方町中浦	厳島神社	三女神		9月9日	勸請年紀不詳	15	7に弁財天神社あり
5	字和郡三崎浦佐田浦	三崎町佐田	厳島神社	三女神		9月17日	勸請年紀不詳	15	7に弁財天神社あり
6	字和郡二及浦	三瓶町二及	厳島神社	厳島姫命			勸請年紀不詳、明治42年合併	i	
〔八幡浜市〕									
1	字和郡向灘村	向灘	厳島大明神	狭依媛命、多紀理媛命、多岐都比媛命		6月17日	勸請年紀不詳	7・13・15	13は宝暦7年本
2	字和郡舌間浦	舌間	厳島大明神	三女神		6月17日	勸請年紀不詳	7・13・15	13は宝暦7年本
3	字和郡国木村	国木	厳島神社	市杵島姫命		9月16日	勸請年紀不詳	15	7・13に弁才天あり
4	字和郡国木村	国木	厳島神社	三女神		9月17日	勸請年紀不詳	15	
5	字和郡真網代浦	真網代	厳島神社	三女神		6月15日	勸請年紀不詳	15	
6	字和郡北茅村	松柏	厳島社	三女神		6月17日	勸請年紀不詳	15	7に弁天神社あり
7	字和郡北茅村	松柏	厳島社	三女神		9月12日	勸請年紀不詳	15	
8	字和郡五反田村	五反田	三神神	三女神		9月9日	勸請年紀不詳	15	
〔東字和郡〕									
1	字和郡神領村	字和町卯之町	厳島神社		合座			15	
2	字和郡(坂戸村)	字和町坂戸	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	小祠、7に弁財天神社あり
3	字和郡東多田村	字和町東栗田	厳島神社	市杵島姫命		3月17日	勸請年紀不詳	15	小祠
4	字和郡伊延村	字和町伊延	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	小祠
5	字和郡常定寺村	字和町常定寺	厳島神社	三女神		3月17日	勸請年紀不詳	15	7・13に弁財天あり
6	字和郡真土村	字和町田苗真土	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	13に弁才天あり
7	字和郡郷内村	字和町郷内	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	小祠
8	字和郡(明間)村	字和町明間	厳島神社	市杵島媛命		6月17日	勸請年紀不詳	15	
9	字和郡惣川下村	野村町惣川	厳島神社			3月18日	勸請年紀不詳	15	小祠、13に弁天あり
10	字和郡富野川村	野村町富野川	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勸請年紀不詳	15	小祠
11	字和郡高山浦	明浜町高山	厳島神社	三女神		6月17日	勸請年紀不詳	15	小祠
12	字和郡新城村	字和町新城	厳島神社					j	7に弁財天神社あり
13	字和郡小原村	字和町小原	厳島神社		境外末社			j	

14	字和郡加茂村	字和町加茂	厳島神社					j	
〔北字和郡〕									
1	字和郡松丸村	松野町松丸	厳島神社	市杵島姫命	境内末社	6月18日	勧請年紀不詳	15	7・13に弁財天あり
2	字和郡豊岡村	松野町豊岡	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勧請年紀不詳、旧号弁財天社	15	7に弁財天神社あり
3	字和郡高田村 稲加	津島町高田	厳島神社	三女神		9月29日	勧請年紀不詳	15	小祠
4	字和郡下灘浦 竹ヶ島	津島町下灘	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勧請年紀不詳	15	小祠
5	字和郡下灘浦 須下浦	津島町下灘	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勧請年紀不詳	15	小祠
6	字和郡平井浦	津島町下灘	厳島神社	市杵島姫命		8月19日	勧請年紀不詳	15	小祠
7	字和郡御代川村	津島町山財	厳島神社	三女神		11月15日	勧請年紀不詳	15	7に弁財天神社あり
8	字和郡中野川村	広見町中野川	厳島神社	市杵島姫命		6月17日	勧請年紀不詳	15	小祠
9	字和郡西野々村	広見町西野々	厳島神社	三女神		6月17日	勧請年紀不詳	15	
10	字和郡大宿村	広見町大宿	厳島神社	三女神	合座	3月8日	勧請年紀不詳	15	
11	字和郡中間村	三間町三間 中間	弁天神社	市杵島姫命				1	
12	字和郡宮野下村	三間町宮野 下	厳島神社	市杵島姫命	相殿			1	
〔字和島市〕									
1	字和郡宮下村	宮下	厳島神社	三女神	境内末社	11月15日	勧請年紀不詳	15	小祀
2	字和郡日振島	日振島	厳島神社	三女神	末社	6月17日	勧請年紀不詳	15	13に弁天あり
3	字和郡沖之島	日振島	厳島神社	多紀理毘売命		6月15日	勧請年紀不詳	15	小祠
〔南字和郡〕									
1	字和郡菊川村	御荘町菊川	厳島神社	三女神		9月17日	勧請年紀不詳	7・15	
2	字和郡長洲村	御荘町長洲	厳島社	三女神		6月17日	勧請年紀不詳	15	
3	字和郡摺木村	御荘町菊川	厳島					13	宝暦7年本
4	字和郡平山浦	御荘町平山	厳島大明神					13	宝暦7年本
5	字和郡内海浦	内海村	厳島神社	三女神		9月17日	勧請年紀不詳	15	
6	字和郡内海浦	内海村	厳島神社	三女神		9月26日	勧請年紀不詳	15	
7	字和郡(柏村)	内海村柏	厳島神社	三女神		6月17日	勧請年紀不詳	15	
8	字和郡正木村	一本松町正木	厳島神社	三女神		6月17日	安政5年6月17日勧請	15	

※「當社先例之以筋目、懇望之條、一筆令啓達候、平岡殿御洞之事、其外國々且那衆社參之砌、神前之宮引、同幣取次、任往古之儀、赦免状如件

永禄十二年三月廿日

棚守修理太輔房顕判

往原物申民部太夫殿

また、かつて、7月1日～7日に行われる御更衣祭には、神主が毎年宮島へ行き神衣をもらって帰っていたという。

図. 愛媛県内の蔽島神社分布図

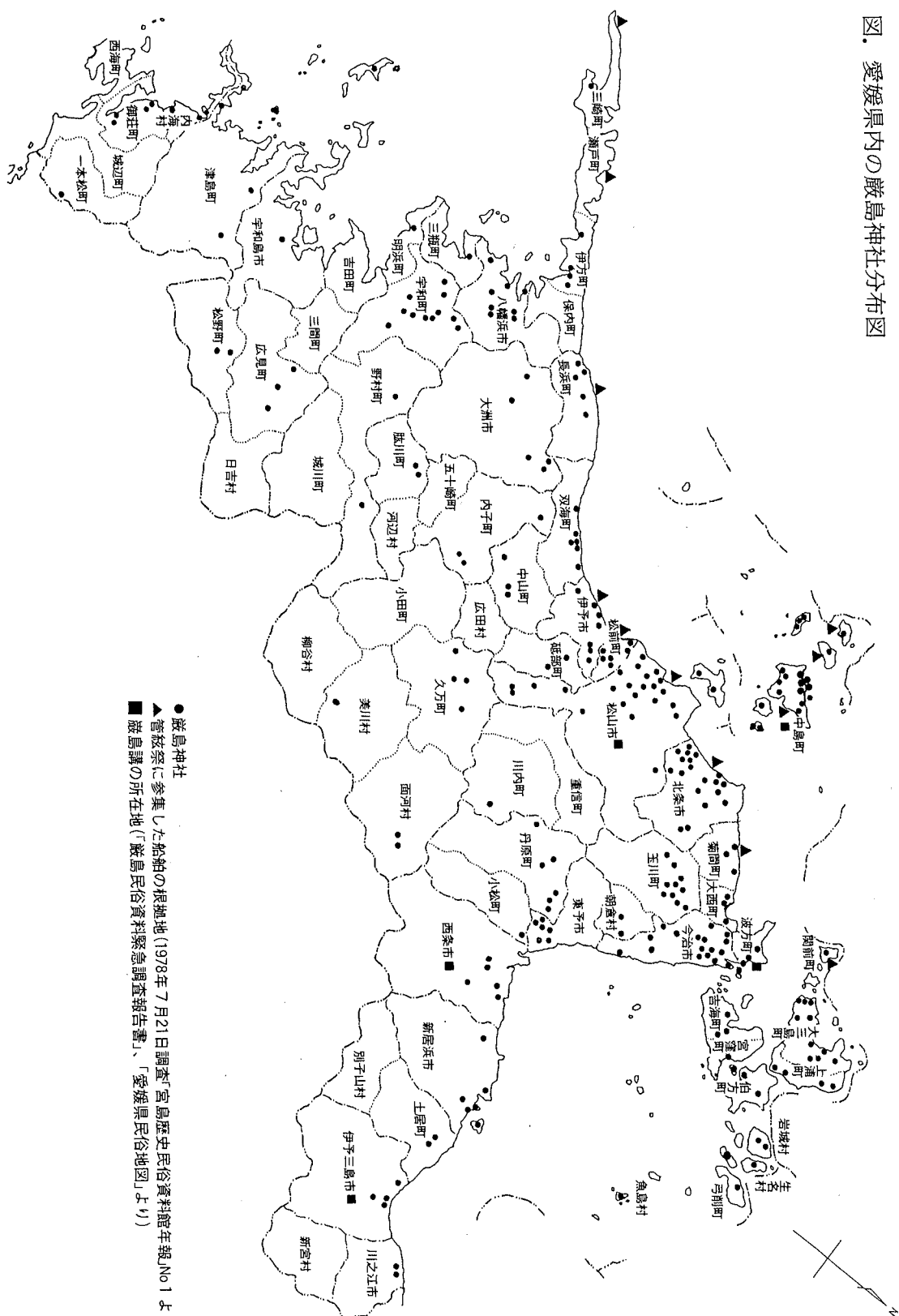


表 2. 地域別厳島神社数一覧(1)

地域区分	郡市名	厳島神社
東予	宇摩郡	2
	川之江市	2
	伊予三島市	4
	新居浜市	6
	西条市	5
	周桑郡	7
	東予市	6
	越智郡	49
	今治市	18
中予	北条市	19
	温泉郡	21
	松山市	25
	上浮穴郡	7
	伊予郡	17
	伊予市	7
南予	喜多郡	10
	大洲市	5
	西字和郡	6
	八幡浜市	8
	東字和郡	14
	北字和郡	12
	宇和島市	3
	南字和郡	8
計		261(100%)

表 3. 地域別厳島神社数一覧(2)

地域区分	郡市名	厳島(市杵島・宮島)神社
東予	宇摩郡	1
	川之江市	0
	伊予三島市	1
	新居浜市	0
	西条市	3
	周桑郡	3
	東予市	3
	越智郡	26
	今治市	9
中予	北条市	2
	温泉郡	4
	松山市	9
	上浮穴郡	2
	伊予郡	2
	伊予市	4
南予	喜多郡	2
	大洲市	3
	西字和郡	4
	八幡浜市	2
	東字和郡	4
	北字和郡	0
	宇和島市	1
	南字和郡	2
計		87 { 本社22 境内社65 }

(『愛媛県神社誌』より)

表 4. 地域別厳島神・宗像神鎮座地一覧

地域区分	厳島神(宗方三神)	狭依比売命 (市杵島姫命)	三女神	姫大神	計
東予	100	4	11	23	138
	{ 本社52 境内社48 }	{ 本社 4 境内社 0 }	{ 本社11 境内社 0 }	{ 本社19 境内社 4 }	{ 本社86 境内社52 (42.2%) }
中予	80	1	16	8	105
	{ 本社50 境内社30 }	{ 本社 0 境内社 1 }	{ 本社15 境内社 1 }	{ 本社 7 境内社 1 }	{ 本社72 境内社33 (32.1%) }
南予	67	3	6	8	84
	{ 本社52 境内社15 }	{ 本社 1 境内社 2 }	{ 本社 5 境内社 1 }	{ 本社 7 境内社 1 }	{ 本社65 境内社19 (25.7%) }
計	247 { 本154 境 93 }	8 { 本 5 境 3 }	33 { 本31 境 2 }	39 { 本33 境 6 }	327 { 本223 境104 }

(『愛媛県神社誌』p. 12より加工引用)

表 5. 旧暦 6 月 17 日に行われる「十七夜祭」等、関連行事一覧

行 事 名	開 催 日	開 催 場 所	内 容	出 典
おかげん祭	旧暦 6 月 17 日	東予市壬生川	鷺森の厳島神社で行われる。「今から四百年前の天正 3 年(1575)、時の鷺の森城主桑原三郎兵衛が戦勝を神に感謝するため安芸の宮島厳島神社から御祭神を城内に迎えて管絃祭を行ったのが始まり、管絃をかなで、酒をくみかわすということばからきたもので、御本社にならって毎年旧暦 6 月 17 日に行われる(中略) 10時半すぎ満潮の中で宮出し。三隻の漁船を横に連結しササ竹に紅白の幕、ちょうちんで飾った御座船に厳島三神を乗せて内港を一巡、11時半すぎ宮入り(下略)」。	「愛媛新聞」1974 年 8 月 6 日付
十七夜のまつり (かいでんままつり)	旧暦 6 月 17 日	越智郡大三島町 宗方	厳島神社及び宗方沖海上で行われる。神功皇后が朝鮮出兵に際して瀬戸内海を航行中、宗方地区の若者が水先案内をつとめたことに始まると伝えられる。「(1)神社にて例大祭が執り行なわれたあと神輿渡御道中をねって海浜に至る。奴を先頭に太鼓、笛、獅子等供奉。(2)神輿は 3 せきのかいでんまに遷御、沖海上に停泊中の御座船に移る。この間かいでんまでは、剣權は剣を振り、梵天はどんでんをふり、漕手は、『おーおんえいやえーやがえい、そりゃよやさのさっさい(弥栄満歳)』を唱和し、お供の笛、太鼓は道中のふれまいをする祭りの最高の場面である。夜ちょうちんに燈りが入ると肥島の宮島さんの行事に入り、かいでんまが水先案内をつとめ漕ぎ戻りで巡回競漕が始まる。夜の行事の最高場面で若い力の見どころ。浜辺からは怒号と黄色い声援のとぶ延々と 2～3 時間にも及ぶ氏子をあげて力のはいる祭りである。」	n・o
宮島さん(祭)	7 月 17 日 (旧暦 6 月 17 日)	越智郡伯方町有 津	厳島神社の管絃祭になったものといわれる。「7 月 17 日の午後から子どもたちは、麦わらを持ちより、海岸の砂浜に小屋をたてる。有津は 5 つの小字に別れており、その小字に麦わらの小屋が立てられる。又灯籠もつくって流す。潮が小屋まで満ちて来たときに小屋に火がつけられ花火も打ちあげられる。」	n・o

かーげん祭	旧暦 6 月 17 日	越智郡波方町小部	明治時代に始まったといわれる。「小麦藁を直径 15 cm 位長さ 3 m 位にゆわえて宮島さんの晩にその先へ火をつけてとぼす行事で、宮島さんをお祭りする意味で小部地区の人が海岸へ出て行くものである（家族数だけの本数をつくる）。」	n
宮島祭	旧暦 6 月 17 日	越智郡上浦町甘崎	「(略)当日は夕方になると海岸で麦わらなどを燃やし、子供は花火を打上げたり、泳いだりして遊ぶ。この日は大潮に当たり高汐を警戒して新田の堤防で番をし、特に小股新田では樋門のところに高張提灯を掲げ、酒や菓子を出して番をする。」	o
宮島さんの飾り舟	旧暦 6 月 17 日	今治市桜井	網敷天満宮の境内に鎮座する厳島神社の祭り。「この日、その年に男児の生誕を見た家では、麦稈を材料にして飾り舟を作る。その長さおよそ 1~1.5 m、帆の高さ 1 m にも及ぶ。夕刻厳島社の前の砂浜にそれぞれ運び来て、灯をともし潮に浮かべて流す。その数約 200 にも及ぶ。あたかも満ち潮に乗り、灯はゆれながら流れて東の方、河原津の方へ進む様は見ものである。陸は古松わだかまる志島ヶ原であり、前は燧灘がひらけて海の彼方から 17 夜の月が昇る頃あいである。」	n・o
厳島神社例祭	旧暦 6 月 17 日	今治市海岸通り	「厳島大神の祭礼で、一般に『宮島さん』といわれている。吹揚神社では、祭神を新町下の海岸へ臨時に勧請して祭る。新町の商店街も大そう賑わい、夏の夜空には、色とりどりの花火が上る。」	o
医王寺十七夜の入波行事	旧暦 6 月 17 日 (最近是新暦 7 月 17 日)	温泉郡川内町北方	医王寺付近の北方一帯で行われる五穀豊饒、悪病退散を祈る祭り。「車台に船型を造りこれに張り紙採色で模様を入れ飾る。仏台様の台座を造り中に薬師如来の像を安置し、周囲は採光し威厳を増す。この台座の前列は御稚児さん(風俗は昔の稚児に準ずる)が一本の綱で並ぶ。最前列にはダイバが道払いし、次に山伏姿の行者が大太鼓、小太鼓、鐘、ホラ貝で音響にぎやかす。その後前記のお稚児さんが続く。台座の後列には紋付、袴姿の信者が続き、台座の両脇には庭狩と言う護衛が付く。本尊の船型が本堂前の広場につくと一行は三回回り、そのところで十七夜端歌が始まる。ダイバや庭狩が主歌を唱えば他の者が(参候)と和する。これが終わればハイヤ踊りに移る。」	n

夏祭り	7月17日	伊予郡中山町泉町	「厳島神社において夏祭りを執行し、この日は近郷よりの参詣者が多く、当日は商工会において街頭を装飾し、花火をあげ店の造物など作る。その他各種多彩な行事が繰り広げられる。」	n
-----	-------	----------	--	---

なお、この他、アンケート調査により、「宮島さん」、「厳島まつり」、「十七夜祭」などの名で、灯明が点され、遙拝やお祓い、燈籠流しなどの行事が行われていた（る）ことが確認される地域は、川之江市、新居浜市港町、越智郡玉川町・生名村、温泉郡中島町の大浦・小浜・長師・粟井・吉木・上怒和・元怒和・津和地・二神、松山市神田町・泊町、上浮穴郡面河村、伊予市灘町、東宇和郡野村町、南宇和郡御荘町である。また、『愛媛県神社誌』によれば東予市大崎龍神社でも御管絃祭と称し祭典が行われている。

さて、これらの表・図からどのようなことがうかがえるであろうか。分布地域については、表1・2及び図によると東予37.9%、中予36.8%、南予25.3%となっておりほぼ県内全域にわたっている（存在しない町村数は16）。また、郡市別にみると、越智郡、松山市、温泉郡、北条市、今治市、伊予郡、東宇和郡の順に多く、沿岸部・島嶼部に濃厚に分布しているが（このことは海上守護神としての厳島神の性格のあらわれといえる）、数は少ないものの山間部にもみられる。

社名は、厳島社、厳島神社、厳島明神、厳島、弁才天などで、時代を遡るほど社名は区々のものである。ここで、弁才天と称するものが相当数あるのは、室町時代以降、特に江戸時代、宮島（厳島社）がその経済的基盤を民衆におき、厳島神を弁才天として信仰を広め来島者の誘致をはかったことと関連しているが、明治初年に改号している例があり、この時期に社名の統一が計られたことも考えられる。

祭神は、市杵島姫命を単独で祀っている神社が62、市杵島姫命（狹依比売命）・多紀理比売命・多紀都比売命が45、三女神とあるものが24となっているが、半数近くが不明であり、受容のあり方、階層などをうかがうことができるのではなかろうか。

相殿・摂末社等についても不明な点が多いが、摂末社が半数をこえ、表3を合わせ考えれば、また、ここでは取り上げていない社殿の規模、社有地などから統廃合の対象となるような小社・小祀が多かったものとみられる。

祭日は、旧暦6月17日が最も多く、判明しているもののうち約50%、9月が約30%、次いで8月、3月、11月となっている。旧暦6月17日に最も多いことは、表5の伝承されている行事からもうかがうことができるが、その他については、春秋の法会や11月の初申神事との関係など、信仰の内容とも係わり、表5とあわせて、今後の検討課題である。

沿革については不詳のものが殆んどであり、また、資料的に不十分なため速断はできないが、明治以前の資料で確認できる神社の数（約40%）からみて、近世以前の創祀と考えられるものは相対的に少ない。宮島には中世後期以降、各地から参拝者が訪れ、伊予国からも参詣船が多数来船するなど、古くから深いつながりをもっており、近世以前の可能性も考えられるが、その多くは近世以降の勧請になり漸次増加して近代に到ったのではなかろうか。なお、表3によれば、厳島神社は神社合祀策等によりそれ以降減少しているが（特に中予）、表4によれば厳島神を祀っている神社の数（三女神・姫大神を祀る神社を除く）には変動がみられない。

表5の行事については、沿岸部・島嶼部で夏祭りとして伝承されているが、それらの廃れた地

域もかなりあると考えられる(管絃祭への来船数の減少とも係わる)。また、子供の成長や五穀豊饒を祈る行事、虫祓いの行事などそれぞれの地域の習俗と一体化したものもみられる。

これらを要約すれば、愛媛県における厳島信仰は、海上守護神及び弁才天としての厳島神の性格の故に、特に近世以降、東予から南予にかけての沿岸部・島嶼部の海に生活の場を求めた人々を中心に受容され、漸次浸透・拡大していったものと考えられる。この厳島信仰は、神社合祀の後もそれぞれの地域に生き続けていると考えられるが、経済構造や生活様式の変化に伴い、信仰の受容者や地域の中で果たす厳島信仰の役割に変容が生じていることも予測される。

以上、愛媛県における厳島信仰について、分社の所在地を中心にそこからうかがえるいくつかの点について述べてきた。資料の厳密な検討なく推測によった点がかなりあり、図表についても不備な点が多い。

また、厳島神信仰の内容やそれが各域の生活の中でどのような意味をもっていたのか、それらの変遷についてはどうか、金毘羅信仰など他の信仰との係わりはどうか、愛媛県における厳島信仰の特徴は何か、等々残された課題は多い。今後の幅広い資料の調査・検討に委ねたい。

資料館の活動

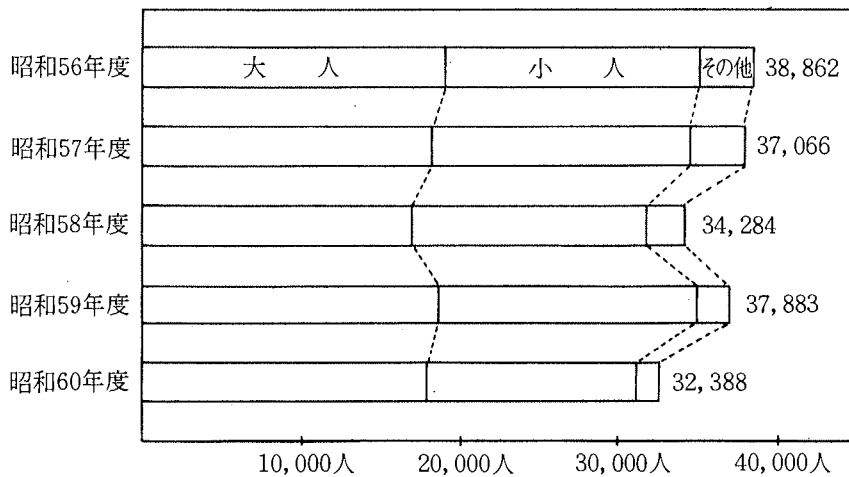
1. 入館者数（昭和60年度）

開館以来の累計 345,083

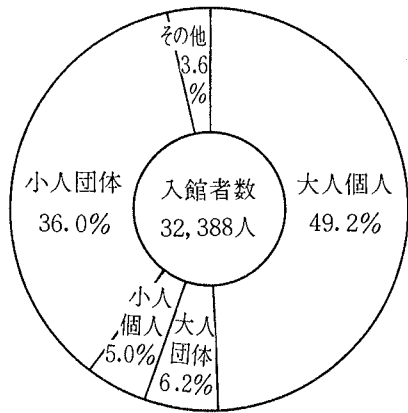
月	大 人		計	小 人		計	その他	合計
	個 人	団 体		個 人	団 体			
4	1,453	178	1,631	177	436	613	13	2,257
5	1,376	490	1,866	62	4,333	4,395	126	6,387
6	811	35	846	50	1,818	1,868	51	2,765
7	962	224	1,186	125	54	179	158	1,523
8	2,178	40	2,218	565	15	580	270	3,068
9	1,345	71	1,416	37	507	544	59	2,019
10	1,508	455	1,963	52	1,987	2,039	78	4,080
11	2,161	309	2,470	148	1,956	2,104	93	4,667
12	518	30	548	28	0	28	32	608
1	1,037	0	1,037	89	0	89	98	1,224
2	689	64	753	12	532	544	72	1,369
3	1,891	101	1,992	290	20	310	119	2,421
計	15,929	1,997	17,926	1,635	11,658	13,293	1,169	32,388

※小人は小・中学生、その他は宮島町民・研究者などの無料入館者。休館日は、12月26日～31日。

入館者数の推移（昭和56年度から昭和60年度まで）



入館者の構成（昭和60年度）



入館者構成の推移
(昭和56年度から昭和60年度まで)

	48.9	91.1	
昭和56年度	大人	小人	その他
	48.9	93.3	
昭和57年度			
	46.7	93.9	
昭和58年度			
	49.0	93.2	
昭和59年度			
	55.4	96.4	
昭和60年度			
	50	100%	

2. 年度別予算一覧

	昭和 56年度	昭和 57年度	昭和 58年度	昭和 59年度	昭和 60年度	備 考
報酬	千 528	千 1,509	千 1,509	千 1,557	千 1,578	資料館協議会委員、館長報酬
賃金	18	20	160		137	
報 償 費	60	65	40	40	35	展示資料借上謝礼など
旅 費	258	198	219	255	150	
需用 費	3,466	3,702	4,025	4,229	4,030	消耗品費、光熱水費、印刷製本費など
役 務 費	124	111	105	288	286	通信運搬費
委 託 料	3,708	3,716	3,417	3,311	5,360	事務補助、管理保守、庭園手入委託料など
使用料・賃借料	13	277	277	277	349	複写機使用料など
工事請負費		265	7,701	1,426	25,672	補修工事費など
原 材 料 費	78	67	63	151	62	資料作成・修繕用材料
備品購入費	2,500	2,500	5,000	17,926	5,466	図書・展示資料等購入費
負担金補助・交付金	496	534	541	566	572	学会協会負担金、補助金など
計	11,249	12,964	22,787	30,026	43,697	

※昭和53年度より昭和56年度まで副館長報酬は兼任のため減額する。

3. 資料収集

(1)寄贈資料

資 料 名	寄贈者名	数量・その他
煙 草 盆	黒紙寿満子氏	1 点
団 扇 立	〃	1 点
火 消 壺	〃	1 点
火 の し	〃	1 点
妊産婦人名簿	〃	1 点、大正 7 年
〃	〃	1 点、大正 11 年
〃	〃	1 点、大正 15 年
〃	〃	1 点、昭和 3 年～4 年
〃	〃	1 点、昭和 3 年～4 年
喜多流独吟兼用 仕舞形附	〃	1 点、大正 5 年
煙 草 入 れ	三 村 義 人	1 点、彫刻 (社景)入
理 斎 随 筆 三	〃	1 点、江戸
玉 石 雑 誌 三	〃	1 点、江戸
厳島神社管絃祭 の図	〃	1 点、昭和 7 年
厳 島 神 社	〃	1 点、戸塚 九一郎書
中 国 新 聞	〃	1 点、明治 44 年 5 月 17 日
畳 織 機	吉 田 宏 喜	1 点
日本三景之一厳 島神社の図	穴 田 利 光	1 点、明治、 多色刷
時 鳥 の ……	〃	1 点、山県 二承書
いつくしま名所 のしるべ	折口八重子	1 点、明治 30 年
急 須	青 木 幾 男	1 点、一角 焼
湯 呑 茶 碗	〃	5 点、〃
絵 葉 書	市 村 輝 男	2 点、宮島
絵 葉 書	平 山 真 栄	4 点、宮島 ホテル
臨時国勢調査規 則類	宮 島 町	1 点、昭和 10 年
国勢調査一件	〃	1 点、昭和 10 年

国勢調査執務一 件	〃	1 点、昭和 10 年
臨時国勢調査一 件	〃	1 点、昭和 14 年
煙 草 盆	石 田 由 三 郎	1 点
櫛 簪	江 上 シ ナ	5 点
〃	〃	4 点
〃	〃	3 点
す だ れ	松 岡 邦 充	2 点
滑 し だ	〃	2 点
飯 杓 櫃	〃	1 点
飯 杓 子	〃	2 点
鮪 桶	〃	1 点
〃	〃	2 点
枕 十 能	〃	1 点
台 手 鉄 桶	〃	2 点
洗 瓶	〃	1 点
下 桶	〃	1 点
花 籠	〃	1 点
煙 管 入 れ	〃	1 点
裁 縫 こ	〃	2 点
竿 分 秤	〃	2 点
湯 た ん ぼ	〃	2 点
パ イ プ	〃	1 点
煙 ラ ジ オ	〃	3 点
ポ ッ ト	〃	2 点
備 中 鉄	〃	1 点
〃	〃	3 点
行 李	〃	4 点
手 提 籠	〃	1 点
豆 腐 籠	〃	1 点
信 玄 袋	〃	1 点
結 界	山 本 力	1 点
帳 簞 筭	〃	1 点
小 田 原 提 灯	〃	5 点
提 灯 箱	〃	5 点
〃	〃	2 点
酒 わ か し	三 宅 定 和	1 点
清 盛 祭 幟	宮島観光協会	1 点

縦 引 鋸	斎 藤 式	1 点
官林入林之証	〃	1 点、明治 21年
船 釘 用 の み	〃	1 点
洗 張 機	木 上 晴 登	1 点
縄 の れ ん	田 中 静 雄	1 点
番 傘	宮 島 町	1 点
看 板	〃	1 点、宮島 観光会館
猿 瓦	天 野 嶺 雪	22 点
格 子 戸	中 井 栄	2 点
大 戸	〃	1 点
格 子	〃	2 点
居管絃祭造花	巖 島 神 社	1 式
半 纏	山 本 英 夫	2 点
雛 祭 用 具	〃	1 式
葛 籠	〃	1 点
絵 葉 書	瀬 田 義 正	65 点、宮島
〃	〃	76 点
絵葉書用写真	〃	44 点、宮島
絵葉書用包装紙	〃	4 箱
宗 和 台	福 田 忠	1 点、3 重
〃	〃	1 点、5 重
〃	〃	1 点、5 重
〃	〃	1 点、5 重
宗 和 台 用 箱	〃	1 点、明治 14年
〃	〃	1 点
〃	〃	1 点
〃	〃	2 点
杉 ば や し	〃	1 点
巖島新誌第 1 号	〃	1 点、明治 34年
伊勢土産名所図 画	〃	1 点、明治 30年
芸備日々新聞	〃	1 点、大正 2 年 3 月 14 日
中 国 新 聞	〃	1 点、昭和 3 年 8 月 28 日
〃	〃	1 点、昭和 7 年 6 月 15 日

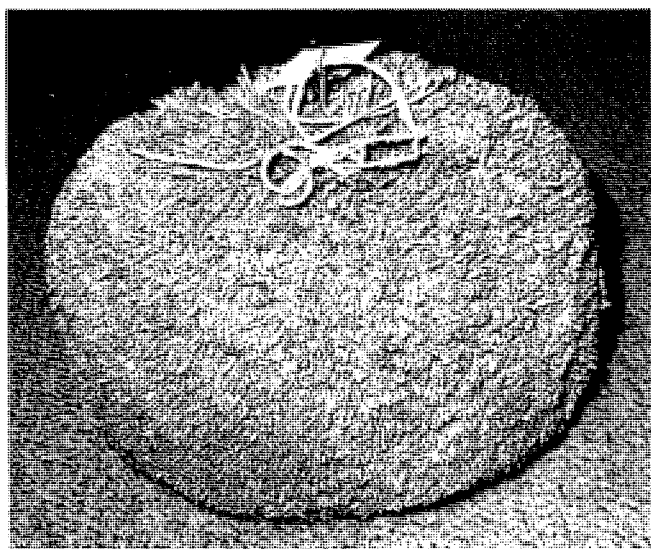
資 料 名	寄贈者名	数量・その他
大阪朝日新聞	福 田 忠	1 点、昭和 37 年 8 月 23 日
最新東京全図	〃	1 点、大正 12 年
高等小学読本字 引	〃	1 点、明治 26 年
尋常小学読本六	〃	1 点、明治 39 年
普通読本一編下	〃	1 点、明治 19 年
〃 二編上	〃	2 点、明治 20 年
〃 三編上	〃	1 点、明治 20 年
〃 三編下	〃	1 点、明治 20 年
〃 四編上	〃	1 点、明治 20 年
〃 四編下	〃	1 点、明治 20 年
小 学 読 本 五	〃	1 点
高等小学読本 第一	〃	1 点、明治 20 年
〃 第二	〃	1 点、明治 20 年
〃 第三	〃	1 点、明治 20 年
〃 第四	〃	1 点、明治 20 年
〃 第五	〃	1 点、点明 治 20 年
〃 第六	〃	1 点、明治 20 年
高等小学新読本 上編三	〃	1 点、明治 27 年
〃 上編四	〃	1 点、明治 27 年
〃 下編一	〃	1 点、明治 27 年
〃 下編四	〃	1 点、明治 27 年
高等小学読本卷 五	〃	1 点、明治 33 年
〃 卷六	〃	1 点、明治 33 年
高等科用帝国読 本卷一	〃	1 点、明治 27 年
〃 卷二	〃	1 点、明治 27 年

〃 卷三	〃	1点、明治 27年	〃 甲卷 2	〃	1点、明治 26年
〃 卷四	〃	1点、明治 27年	小 学 理 科 三	〃	1点、明治 32年
〃 卷五	〃	1点、明治 27年	高等小学理科生 徒用卷 1	〃	1点、明治 27年
〃 卷六	〃	1点、明治 27年	実験理科書卷 2	〃	1点、明治 32年
〃 卷七	〃	1点、明治 27年	普通教育鉱物界 教科書	〃	1点、明治 35年
中等国語読本卷 四	〃	1点、明治 35年	小学校生徒用広 島県管内地理	〃	1点、明治 24年
〃 卷五	〃	1点、明治 35年	小学地理教本 3	〃	1点、明治 21年
〃 卷六	〃	1点、明治 35年	〃 4	〃	1点、明治 21年
新編国文読本一 の上	〃	1点、明治 28年	訂正日本地理初 歩卷下	〃	1点、明治 29年
〃 一の下	〃	1点、明治 28年	新撰日本地理初 歩卷上	〃	1点、明治 32年
〃 三の上	〃	3点、明治 28年	日本小歴史初歩 上	〃	1点、明治 25年
〃 三の下	〃	2点、明治 30年	〃 初歩下	〃	1点、明治 26年
新撰尋常日本読 本五	〃	1点、明治 26年	近古史談前編	〃	1点、明治 28年
〃 七	〃	1点、明治 26年	〃 後編	〃	1点、明治 29年
〃 八	〃	1点、明治 25年	国史紀要卷上	〃	1点、明治 20年
日本読本第六	〃	1点、明治 20年	〃 卷中	〃	1点、明治 20年
高等国文卷一	〃	1点、明治 28年	高等小学古今事 歴大要卷二	〃	1点、明治 26年
改訂増補国文教 科書前	〃	1点	帝国史談前編卷 二	〃	1点、明治 32年
中等漢文第二編 下	〃	1点、明治 28年	修正新撰帝国史 要上卷	〃	1点、明治 33年
中等漢文読本卷 二	〃	1点、明治 34年	〃 下卷	〃	1点、明治 33年
〃 卷三	〃	1点、明治 34年	新撰帝国小史第 3・4 学年用	〃	1点、明治 32年
漢文中等読本一 卷	〃	1点、明治 26年	尋常小学修身書 第 3 学年用	〃	1点、明治 38年
小学筆算教科書 高等科 7	〃	1点、明治 21年	高等小学修身卷 一	〃	1点、明治 26年
〃 高等科 8	〃	1点、明治 21年	〃 卷三	〃	1点、明治 26年
〃 高等科 9	〃	1点、明治 21年	〃 卷四	〃	1点、明治 25年
小学理科新書甲 卷 1	〃	2点、明治 26年	高等小学修身書	〃	1点、明治 32年

中等倫理書卷二	〃	1点、明治 31年
修身女訓生徒用 四	〃	1点、明治 26年
新定小学習字帖 卷13	〃	1点、明治 20年
〃 卷14	〃	1点、明治 20年
高等小学書キ方 手本第1学年上	〃	1点、明治 38年
〃 第2学年上	〃	1点、明治 38年
〃 第2学年下	〃	1点、昭和 37年
〃 第3学年上	〃	1点、明治 38年
〃 第3学年下	〃	2点、明治 37年
〃 第4学年上	〃	1点、明治 38年
〃 第4学年下	〃	1点、明治 39年
中等習字帖上	〃	1点、明治 32年
〃 下	〃	1点、明治 32年



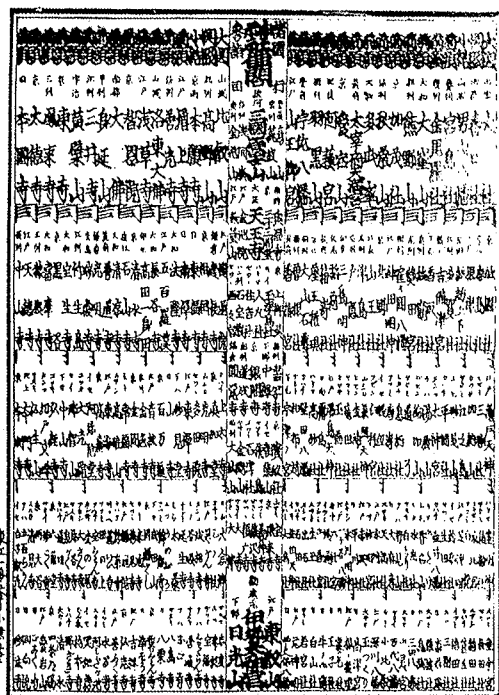
官林入林之証



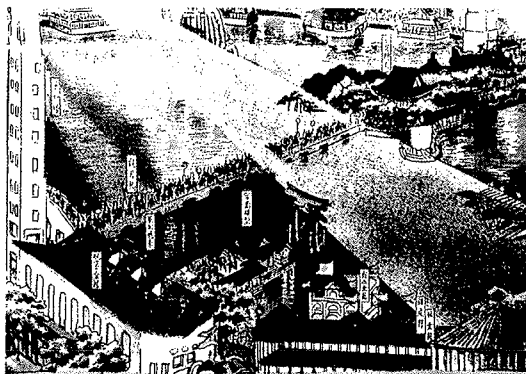
杉ばやし

(2)購入資料

資料名	数量・その他
諸国六十余州名所図会	1点、多色刷、安藤広重画
日本三景之図	1点、狩野洞白画、松島、天橋立、宮島
厳島合戦図	1点、多色刷、玉蘭斎貞秀画
宮島全景図	1点、岡眠山写
日本名所図会	1点、多色刷、尾形月耕画
聖地史蹟名勝安芸宮島	1点、多色刷
日本山海潮陸図	1点、宝永7年、石川流宣図
平和記念東京博覧会夜間開場図	1点、大正11年、多色刷
神社仏閣番付	1点
毛利元就書状	1点、棚守左近衛将監宛
本朝事跡考	1点、寛永20年
敷島美観	1点、明治39年
広島県写真帖	1点、大正15年
安芸国宮島	1点
宮島全景	1点
鉄道旅行案内	1点、大正3年
管絃祭御座船水幕	1点
宮島景画帖	1点、里見雲嶺画



神社仏閣番付



平和記念東京博覧会夜間開場図 (一部分)



宮島景画帖

4. 調査・研究等

昭和60年5月24日：資料調査（広島市・みよし屋）

7月3日：資料調査（広島市・みよし屋）

7月28日～29日：書籍・古文書等のむし・かび害、紙の保存対策研修会（東京都）

10月4日～6日：日本民俗学会（佐倉市）

10月26日～27日：部落問題研究者全国集会（京都市）

昭和61年2月12日～14日：職員研修（東京都・横浜市）

3月5日：資料調査（広島市・市立中央図書館）

3月16日：資料調査（広島市・県立図書館）

（昭和60年9月より収蔵資料の写真撮影・カード整理及びネガフィルム・乾板の整理を行う。）

5. 展示・普及等

昭和60年4月7日：「安芸厳島祭礼之図」、「安芸宮島祭礼之図」の撮影（第一美術）。

4月22日：「七浦屏風」、「二位法尼像」、「管絃祭御座船・漕船」の出展（源平ロマン展）。

4月22日：呉市建設局視察。

4月24日：源平ロマン展の展示立会。

6月1日：赤旗通信部岩根氏取材（宮島の絵葉書等）。

6月18日：広島大学鈴木氏保存民家等視察。

7月22日：広島修道大学博物館学受講生見学

7月25日：第7回資料館セミナー。※

7月29日：龍谷大学仏教ゼミ一行見学

8月7日：武蔵村山市文化財専門委員成迫氏視察。

8月7日：カナダハミルトン小学校、スウェーデン平和使節団一行見学

9月4日：広島女子大学生資料調査（宮島の文化財）

9月20日：広島市・高垣氏資料調査（厳島釜）。

9月27日：鈴ヶ峰女子短大学生資料調査。

10月2日：「厳島図会」、「厳島合戦絵巻」の撮影（佐々木スタジオ）

10月10日：大阪産業大学坂本氏他見学。

10月12日：駒沢大学水原氏資料調査（厳島の縁起）

10月19日～20日：米子高専永井氏資料調査（狂言関係資料）

11月15日：「平清盛像」、「厳島・三保松原図」の撮影（NHK）、富くじ関係資料の撮影（RCC）

11月21日：宮島中学校郷土クラブ見学。

11月27日：代表民家の撮影（NTT 情報サービス開発室）

昭和61年3月6日～7日：米子高専永井氏資料調査（能楽関係資料）

3月20日：神保氏他資料調査（民具）。

3月31日：文化女子大学中谷氏資料調査（冑）。

1月22日：ひろしま美術館森川氏、ライピチッヒ美術館副館長来館

※第7回資料館セミナー

目的および内容

○厳島神社の玉垣をとりあげ、参加者自らが、それを観察・計測し、そこに刻まれている文字を読みとり、また拓本（乾拓）にとることによって、資料の扱い方・調べ方を学ぶ。

○玉垣のもつ意味、宮島の歴史とのかかわりについて考える。

主催

宮島歴史民俗資料館

対象および参加者

中学2年生、55名（引率教師2名）

- ・『宮島の歴史と民俗』No.4の刊行。B5版68ページ、昭和61年3月30日発行。

6. 歴史民俗資料館協議会

昭和60年度資料館協議会委員

委員名（順不同） ◎は委員長、○は副委員長

後藤陽一 広島修道大学教授

定宗一宏 広島文化女子短大教授

出口広志 広島県教育委員会文化課長

岡田貞治郎 広島県文化財審議会委員

野坂元良 厳島神社宮司

平山真栄 大願寺住職

◎岩村益文

小西延徳

木上晴登

宮郷安輝

森脇立夫 宮島町議会議長

佐々木一彦 宮島町議会副議長

○藤岡国男

平野勝 宮島町議会議員

昭和60年度資料館協議会

昭和60年11月26日

協議内容

1. 昭和59年度の資料館運営
2. 昭和60年度の資料館運営
 - 資料館全館の屋根瓦修復工事について
 - 資料館の広報活動について（分散展示等）
3. 昭和61年度の資料館運営
 - 収蔵庫等の諸施設の改善について（現状の具体的諸問題）
 - 主要事業について

7. 施設の整備

資料館の屋根（瓦）については、開館以来部分的な補修工事を行ってきたが、瓦の破損、野地の腐蝕等により雨漏りが激しくなったため、全館にわたって屋根の改修工事を行った。

工期 昭和60年12月13日～昭和61年3月25日

請負者 ㈱増岡組広島支店

8. 贈入図書・受贈交換図書

編著者名	書名	出版
原田伴彦・上杉聰他	近代部落史資料集成 第2巻・第7巻～第10巻	三一書房
芸能史研究会	日本の古典芸能 第1巻～第10巻 日本祭礼行事集成 第1巻～第6巻	平凡社
河合正治	安芸毛利一族	新人物往来社
地方史研究協議会	新版地方史研究必携	岩波書店
南博	近代庶民生活誌 第1巻・第三巻	三一書房
奈良国立文化財研究所	木器集成図録 近畿古代篇	奈良明新社
樽谷雅好	紅葉姫伝説紀行 部落史用語辞典	桂書房 柏書房
野間光辰	完本色道大鏡	友山文庫
伊原敏郎	歌舞伎年表 第1巻～第8巻	岩波書店
河合正治	中世武家社会の研究	吉川弘文館
矢島睿	北海道の祝事	明玄書房
三浦貞栄治他	東北の祝事	〃
都九十九一他	関東の祝事	〃
小林一男他	北中部の祝事	〃
小沢秀之他	南中部の祝事	〃
倉田正邦他	近畿の祝事	〃
坂田友宏他	中国の祝事	〃
藤丸昭他	四国の祝事	〃
中村正夫他	九州の祝事	〃
崎原恒新他	沖縄・奄見の祝事	〃
林英夫他	番付集成 上 美術年鑑 1985	柏書房 美術年鑑社
守屋毅	近世芸能興行史の研究	弘文堂
観光資源財団	歴史的町並み事典 絵解き お伽草子	柏書房 有精堂 〃
安澤秀一	史料館・文書館学への道 国史大辞典 第6巻 みゅうじあむ紀行	吉川弘文館 〃 日本観光協会
川勝政太郎	日本石材工芸史	綜芸舎

香川県神職会	香川県神社誌 上巻・下巻	香川県神職会
遠藤武他	日本の民具 第1巻～第4巻	慶友社
	民俗民芸双書 第4巻・第22巻・第24巻・第60巻・第67巻・第93巻・第96巻～第100巻	岩崎美術社
	民具調査ハンドブック	雄山閣
	民具研究ハンドブック	〃
	新修大津市史 第6巻～第8巻	大津市役所
山岸寿治	漆ぬりもの風土記 東日本編・西日本編	雄山閣
宮本馨太郎	民俗博物館論考	〃
	佐伯郡誌	臨川書店
萩原秀三郎・須藤功	日本宗教民俗図典 1～3	法蔵館
	平家納経 厳王品・法華経序品・般若心経	美術公論社
	平家物語 長門本	国書刊行会
横山重	神道物語集	古典文庫
松本隆信	影印室町物語集成 第1輯～第5輯	汲古書院
	神社古図集	日本電報通信社
松岡久人	安芸厳島社	法蔵館
	岩波講座日本考古学 1～2・4・6	岩波書店
文化庁	史跡名勝天然記念物指定目録	第一法規
宮崎清	藁 I・II	法政大学出版局
日本博物館協会	全国博物館総覧 1・2	ぎょうせい

逐次刊行物	
歴史学研究	538～549
日本歴史	443～454
地史研究	185～188
広島県文化財ニュース	104～107
博物館研究	第20巻4号～第21巻3号
月刊文化財	259～270
社会史研究	6
文化財の虫菌害	第9号～第10号

受贈図書

〔読谷村立歴史民俗資料館〕

読谷村立歴史民俗資料館紀要 第9号

渡慶次の民話

資料館だより No.13～No.15

〔鹿児島県立博物館〕

研究報告 第4号

博物館要覧 昭和60年度

鹿博だより No.12～No.14

〔大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館〕

USA SITE MUSEUM NEWS No.9

～No.11

〔日田市立博物館〕

日田の文化財

日田文化 第28号

〔長崎市立博物館〕

長崎市立博物館々報 第25号

〔佐賀県立九州陶磁文化館〕

年報 No.4

新収蔵品展図録

セラミック九州 No.12

〔福岡市立歴史資料館〕

福岡市立歴史資料館年報 No.13

海に生きる一玄海灘の漁業、その歴史と民俗一

〔福岡市教育委員会〕

昭和58年度収集収蔵品目録

〔北九州市立考古博物館〕

常設展示図録

須恵器のはじまり展図録

経塚遺宝展図録

〔松山市立子規記念博物館〕

子規記念博物館年報 3

子規博だより Vol.5-1～Vol.5-3

〔瀬戸内海歴史民俗資料館〕

瀬戸内海歴史民俗資料館年報 第10号

瀬戸内海歴史民俗資料館紀要 第2号

〔徳島県博物館〕

徳島県博物館紀要 第16集

徳島県博物館報 No.53

〔下関市立長府博物館〕

蔵品目録 (1)

〔防府市教育委員会〕

防府市文化財調査年報 V～VII

防府の木喰仏

〔広島県企画振興部〕

土地分類基本調査 竹原

〔広島県立図書館〕

広島県内公共図書館郷土資料目録 第28号

～第29号

〔広島県草戸千軒町遺跡調査研究所〕

草戸千軒町遺跡 1983

草戸千軒 No.130～No.141

〔広島県立社会教育センター〕

社会教育情報ひろしま 第12号

〔広島市教育委員会〕

池之内遺跡発掘調査報告

岡谷遺跡・狐が城古墳発掘調査報告

〔広島市公文書館〕

紀要 第8号

日浦・船越村外役場文書目録

〔広島市郷土資料館〕

郷土史料館だより No.1

〔海田町教育委員会〕

海田町の近世建築調査報告書

〔東広島市教育委員会〕

簾古墳発掘調査報告書

埋蔵文化財調査報告書

〔三次市歴史民俗資料館〕

- みよし地学ぶっく
- 〔尾道市立美術館〕
- 尾道中世遺跡
- 富岡鉄斎展図録
- 小林和作の精華
- 〔農村文化史料館〕
- いとぐるま No.1
- 〔神辺町立歴史民俗資料館〕
- 歴史民俗資料館資料目録 V
- 古墳時代の神辺
- 〔新市町教育委員会〕
- 尾市1号古墳発掘調査概報
- 〔広島民俗学会〕
- 広島民俗 第23号～第24号
- 〔地方文化研究所〕
- 月刊ちぶんけん 2～3
- 〔大聖院〕
- 霊峰 第250号～262号
- 〔村上正名氏〕
- ひろしま城と古戦場
- 〔宮島町教育委員会〕
- 東広島の文化財
- 中垣内遺跡試掘調査概要
- 長野遺跡発掘調査概報
- 小深川工場跡調査概報
- 長門深川廃寺 III
- 行武城跡発掘調査報告
- 石神製鉄遺跡
- 笹利迫田遺跡発掘調査報告書
- 大榎遺跡群
- 石槌権現遺跡群・茜ヶ峠遺跡発掘調査報告
- 大宮遺跡発掘調査報告書
- 須賀谷古墳群・豊谷東遺跡発掘調査報告書
- 五反田第1・2号古墳発掘調査報告書
- 小塚八幡神社前古墳発掘調査報告書
- 上日神谷遺跡発掘調査報告書
- 三段田城跡発掘調査報告書
- 行年遺跡発掘調査報告書
- 〔助〕広島県埋蔵文化財調査センター年報 I
- ひろしまの遺跡 第20号～第22号
- 〔岡山県立博物館〕
- 岡山県立博物館だより 24号
- 〔三浦叶氏〕
- 門前町西大寺叢談
- 〔神戸市立博物館〕
- 神戸市立博物館年報 No.2
- 研究紀要 第2号
- 博物館だより No.11～No.14
- 〔国立民族学博物館〕
- 国立民族学博物館国内資料調査委員調査報告集 No.6
- 〔大阪市立博物館〕
- 大阪市立博物館報 No.24
- 〔日本民家集落博物館〕
- 民家集落ふるさとだより No.3～No.4
- 〔奈良県立民俗博物館〕
- 民俗博物館研究紀要 第9号
- 民俗博物館だより Vol.X I No.4～Vol.X II No.3
- 〔京都国立博物館〕
- 昭和59年度京都国立博物館年報
- 〔京都府立山城郷土資料館〕
- 山城郷土資料館報 第3号
- 酬恩庵の文書から
- 山城国一揆とその時代
- 発掘成果速報（昭和59年度）
- 山城郷土資料館だより 第3号
- 〔京都市考古資料館〕
- 京都市考古資料館年報 昭和58・59年度
- 〔京都市歴史資料館〕
- 京都市歴史資料館年報 59年度
- 京都市歴史資料館紀要 第2号

- 〔宇治市歴史資料館〕
宇治市歴史資料館年報 59年度
宇治市歴史資料館
- 〔承天閣美術館〕
加納白鷗作品集 1
- 〔福井県立若狭歴史民俗資料館〕
年報 1985
若狭の田の神祭り
鳥浜貝塚 1984年度調査概報・研究の成果
- 〔石川県立郷土資料館〕
郷土資料館だより 第44号～第45号
- 〔名古屋市博物館〕
博物館だより 43号～48号
- 〔日本民俗資料館・松本市立博物館〕
松本城の歴史展
- 〔新潟県美術博物館〕
新潟県美術博物館報 昭和59年度
美術博物館だより 25～27
- 〔沼津市歴史民俗資料館〕
資料館だより Vol.10、No.6～Vol.11、No.6
- 〔平塚市博物館〕
平塚市博物館年報 No.8
平塚市博物館研究報告 No.8
平塚の遺跡
- 〔紙の博物館〕
百万塔 第61号～第63号
- 〔神奈川大学日本常民文化研究所〕
要覧 1985
十三塚―実測調査・考察編―
民具マンスリー 第18巻1号～第18巻2号
- 〔サントリー美術館〕
サントリー美術館ニュース第76号～第82号
- 〔ペンタックスギャラリー〕
Pentax Gallery News No.60～No.63
- 〔郵政省通信博物館〕
資料図録 No.30～No.33
- 館外資料目録 (上)
前島密にあてた大久保利通書簡集
- 〔お茶の水女子大学学芸員課程〕
博物館実習報告 第1号
- 〔千葉県立総南博物館〕
総南博物館報 第30号
- 〔埼玉県立博物館〕
埼玉県立博物館紀要 11
メキシコの民芸
かお展示図録
博物館だより 49号～52号
- 〔埼玉県立歴史資料館〕
館報 第6号
研究紀要 第7号
也加多 第3号
- 〔群馬県立歴史博物館〕
群馬県立歴史博物館報 第6号
群馬県立歴史博物館紀要 第6号
おじいさんおばあさんのちいさかったころ
博物館だより No.20
- 〔栃木県立博物館〕
研究紀要 第2号
- 〔福島県歴史資料館〕
研究紀要 第7号
- 〔会津民俗館〕
会津民俗館だより 第11号～第13号
- 〔東北歴史資料館〕
年報 昭和59年度
三陸の漁業
- 〔秋田県立博物館〕
秋田県立博物館研究報告 第10号
館報 昭和59年度
博物館ニュース No.51～No.56
- 〔岩手県立農業博物館〕
稲作の作期拡大のための技術進歩の過程
農業博物館だより No.38

町史のあゆみ

1、日誌から

昭和60年10月2日～10月5日 野坂家資料調査、後藤陽一委員長ほか。

10月3日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。

10月7日 郷土学習講座、第36回。

10月8日 井口高校・菅氏来室。

水産研・上田氏、水族館・山下氏来室（管絃祭の件）。

10月10日 大竹市民文化講座、岡崎環『宮島の歴史』。

10月14日 法政大・田口氏ほか来室（吉村氏の狂言本について）。

10月15日 『民俗編』絵馬調査、編さん委員藤井昭氏。

10月18日 水族館・山下氏来室。

10月21日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。

10月22日 宮島中学校、お島廻り。

10月23日 町教委事務連絡会。

10月28日 芸能保存会講演、岡崎環『宮島の芸能史と宮島踊』。

10月31日 郷土学習講座、特別講座『四川省文物展』（広島県立美術館）。

『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。

11月2日 絵馬調査（千疊閣）、編さん委員藤井昭氏、編さん委員頼祺一氏。

11月3日 『地誌・紀行編』打ち合わせ、編さん委員土井作治氏来室。

11月6日 町教委事務連絡会。

11月7日 中国新聞・林氏来室（手水鉢の件）。

11月8日 廿日市町・一色氏来室。

11月10日 広島県立歴史民俗資料館友の会、お島廻り。

11月11日 郷土学習講座、第37回。資料調査（宮島の写真）、大西町佐々木氏。

11月14日 九州退職教職員会一行の来島研修。

資料調査（宮島の写真）、大西町佐々木氏。

『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。

11月15日 RCC 録画。宮島小学校副読本検討。

11月16日 広島県学事振興室一行の来島研修。

11月19日 郷土学習講座、特別講座『みよし風土記の丘を訪ねて』。

- 11月21日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 11月21日～22日 広島県歴史民俗資料館等連絡協議会に参加、向島町。
- 11月23日～25日 民具研究講座、日本民具学会に参加、香川県高松市。
文化庁木下忠氏、神保教子氏、竹中順子氏、野上彰子氏、編さん委員藤井昭氏と民俗編の打ち合わせ。
- 11月27日～29日 野坂家資料調査。
- 11月28日～29日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 12月2日 郷土学習講座、第38回。
- 12月11日 宮島歴史民俗資料館長来室（民俗調査の件）。
- 12月12日 米ミネソタ州教育関係者一行の来島研修。
『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 12月14日 マツダ(株)・為国氏ほか来室。
専門委員会（『地誌・紀行編』）。
- 12月20日 同和講演（長寿大学）、広島県立社会教育センター・林利春氏『同和問題を解決するために』。
- 昭和61年 1月7日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 1月9日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 1月13日 郷土学習講座、第39回。
- 1月14日 職員同和研修。
- 1月17日 職員同和研修。
- 1月22日 水族館・山下氏来室。
- 1月23日 警察学校生徒来島研修。
- 1月28日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 2月4日 郷土学習講座、第40回。
- 2月5日 中四国校長会一行の来島研修。
- 2月6日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 2月13日 陸上自衛隊来島研修、岡崎環『厳島の合戦』。
『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 2月14日 町教委事務連絡会。
- 2月20日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 2月26日 三次地方史研究会藤村耕市氏、新祖隆太郎氏来室。『あき』編集。
- 2月27日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 3月3日 郷土学習講座、第41回。
資料調査（外国人登宿帳の整理）、編さん委員定宗一宏氏ほか。
- 3月5日 町教委事務連絡会。
- 3月7日 資料調査（外国人登宿帳の整理）、編さん委員定宗一宏氏ほか。
- 3月8日 郷土学習講座、厳島神社宝物名品展飯田楯明氏『よろいとかなな』。

- 3月11日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 兵庫県史編さん室庄氏来室（多和文庫フィルムの貸出）。
- 3月11日～14日 野坂家資料調査、後藤陽一委員長ほか。
- 3月14日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 3月15日 専門委員会（『民俗編』）。担当メンバーの初顔合せ。
- 3月16日～31日 『民俗編』調査、神保教子氏ほか。
- 3月19日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 『宮島の歴史と民俗』の編集。
- 3月20日～21日 『文芸編』資料調査（県立図書館）、美濃正一郎氏。
- 3月23日、25日、27日 『文芸編』資料調査（県立図書館）、美濃正一郎氏。
- 3月25日 『民俗編』小祠・小堂調査、佐々木卓也氏。
- 3月25日～26日 『地誌・紀行編』資料調査（松山市立子規記念博物館）。
- 3月28日 『民俗編』調査、編さん委員藤井昭氏。
- 4月3日 教育長、教育次長と打ち合わせ（町史編さん事務を公民館職員に委託について）。
- 4月7日 郷土学習講座、第42回。
 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 4月6日～9日 野坂家資料調査、後藤陽一委員長ほか。
- 4月8日～9日 厳島神社御文庫資料調査。
- 4月10日 『民俗編』小祠・小堂調査、佐々木卓也氏。
- 4月14日 小松茂美氏古筆学研究所開設祝賀会、帝国ホテル。
 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 4月15日 文化庁木下忠氏と民俗調査について打ち合わせ。
- 4月16日～19日 資料調査（厳島砲台について）、防衛研究所戦史室。
- 4月21日 井口高校・菅氏来室。
- 4月22日 資料調査、滝町吉村氏。
- 4月23日 町史刊行について事務局（教育長、教育次長、係長）と打ち合わせ。
- 4月24日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 『文芸編』資料調査（県立図書館）、美濃正一郎氏。
- 5月1日 厳島公園関係史料を藤村耕市氏から借用する。
- 5月7日～10日 厳島神社御文庫資料調査、松岡久人副委員長ほか。
- 5月8日 倉橋町・道岡氏、井上氏来室。
- 5月12日 郷土学習講座、第43回。
 松岡町会議員来室（雁木の件）。
- 5月14日 資料調査（狂言、能手付け）、滝町吉村氏。
- 5月16日～17日 『地誌・紀行編』資料調査、山口県文書館。
- 5月17日～18日 中・四国民具学会、山口県柳井市。
- 5月25日 ケンブリッジ大ホルト教授一行来島、案内。

- 5月28日 『自然と人間編』の打ち合わせ、編さん委員藤原健蔵氏来室。
『文芸編』資料調査（県立図書館）、美濃正一郎氏。
- 5月30日 理学部長会議一行来島研修。
- 6月2日 郷土学習講座、第44回。
広島保育専門学校生徒来島研修。
- 6月3日 編さん副委員長松岡久人氏来室。
- 6月10日 郷土学習講座、厳島神社宝物名品展福田道憲氏『染織』。
- 6月11日～14日 『民俗編』信仰の伝播調査（東京）、西井章氏。
- 6月12日 宮島中学校郷土研究クラブ、佃雅文『宮島の井戸と祠』。
『民俗編』小祠・小堂調査、佐々木卓也氏。
- 6月13日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 6月14日 専門委員会『自然と人間編』。
- 6月15日 SunSun ひろしま・史跡めぐり。
- 6月18日 編さん委員藤原建蔵氏一行来島研修。
『あき』の発送。
- 6月19日 『民俗編』小祠・小堂調査、佐々木卓也氏。
- 6月24日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 6月27日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
『文芸編』資料調査（県立図書館）、美濃正一郎氏。
- 6月27日～7月1日 『自然と人間編』地図調査（国土地理院）、編さん委員藤原健蔵氏。
- 6月29日 『民具が語る日本文化シンポジウム』、大阪市。
- 7月5日～6日 『自然と人間編』合宿調査、編さん委員藤原健蔵氏ほか。
- 7月7日 郷土学習講座、第45回。
上海復旦大学呉傑氏来島案内。
『石造物編』調査（弥山）、是光吉基氏ほか。
- 7月13日 『自然と人間編』トリ調査（青海苔浦）、熊谷美登氏。
- 7月14日 河合正治氏来室。
- 7月15日 『自然と人間編』陸上動物調査、林勝治氏。
- 7月20日 広島県立歴史民俗資料館文化財講座、佃雅文『中国山地の鉄』。
- 7月21日 広島修道大学博物館実習。
- 7月23日 管絃祭。
『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 7月23日～24日 『民俗編』小祠・小堂調査、佐々木卓也氏。
- 7月24日 広島営林署訪問。
編さん委員定宗一宏氏来室。
- 7月25日～26日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
- 7月28日～31日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。

7月31日 事務補助員林妙子氏退職送別会。
 8月1日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月2日 編さん委員土井作治氏来室、『地誌・紀行編』の打ち合わせ。
 8月3日 郷土学習講座、第46回。
 8月4日～5日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月7日 『石造物語』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月9日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月7日～10日 『自然と人間編』昆虫調査（大江、長浦、大元、青海苔浦、）水田国康氏
 ほか。
 8月10日～14日 『民俗編』調査、野上彰子氏。
 8月11日～13日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月18日～22日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月20日～22日 厳島神社社務所資料調査、編さん委員甲斐英男氏。
 8月22日 『自然と人間編』水生生物調査、山下欣二氏。
 8月23日～24日 『自然と人間編』トリ調査（青海苔浦）、熊谷美登氏。
 8月25日 『自然と人間編』陸上動物調査、林勝治氏。
 8月25日～28日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 8月25日～29日 『民俗編』調査、口頭伝承、栗原秀雄氏ほか。
 8月27日 広島市郷土史講座、岡崎環『宮島芝居について』。
 8月30日 『石造物編』町内実測調査、是光吉基氏。
 9月1日 郷土学習講座、第47回。
 9月2日～6日 厳島神社社務所資料調査。
 9月5日～6日 『自然と人間編』昆虫調査、水田国康氏ほか。
 9月8日 『自然と人間編』水生生物調査（九州大学）、山下欣二氏。
 9月8日～13日 厳島神社社務所資料調査、委員長後藤陽一氏。
 9月11日 能・狂言関係調査（資料館）、国立能楽堂・榎本氏、編さん委員長後藤陽一氏。
 廿日市区教育研究会社会科部会一行来島研修。
 9月16日 資料調査、滝町福田道憲氏。故福田直記氏所蔵資料を預る。
 9月16日～19日 『自然と人間編』陸上動物調査、林勝治氏。
 9月17日 『自然と人間編』水生生物調査、山下欣二氏。
 9月24日 連歌堂実測調査、広島大・朝倉尚氏。
 9月26日 『民俗編』調査、西井章氏。
 9月29日～10月3日 近世史料取扱講習会、京都府立総合資料館。

2、委員会

- 1) 昭和60年12月14日 専門委員会（地誌・紀行編）。宮島中央公民館
 出席者：後藤陽一氏、松岡久人氏、土井作治氏。

大島教育長、山田教育次長、編さん室員。

議題：（報告）編さん方針と進行状況

（協議）1、編さん方針について

2、脱稿までの時間配分と専門委員の確保について

3、他の編の進行状況について

4、その他

2) 昭和61年3月15日 専門委員会（民俗編）、宮島中央公民館。

出席者：後藤陽一氏、藤井昭氏、神保教子氏、栗原秀雄氏、西井章氏、佐々木卓也氏、竹中順子氏、野上彰子氏、野坂元良氏、木上晴登氏。

大島教育長、山田教育次長、編さん室員。

議題：1、宮島町史の構成および刊行計画

2、民俗編の構成および分担

3、留意事項その他

民俗編の構成と分担(案)

1. 総観	藤井昭	広島女学院大学
2. 衣	神保教子	日本民俗学会会員
3. 食	野上彰子	日本民具学会会員
4. 住	竹中順子	日本民具学会会員
5. 生産・生業・職人の生活、杓子	野上彰子	
木工	竹中順子	
6. 交通・交易		
7. 社会生活	藤井昭	
8. 信仰	岡崎環	町史編さん室
9. 厳島信仰の伝播	西井章	日本民俗学会会員
10. 民俗芸能	友久武文	広島女子大学
11. 人の一生	木上晴登	
12. 年中行事		
神社の行事	木谷昌光	厳島神社
町の行事	木上晴登	
13. 口頭伝承	栗原秀雄	
14. 小祠・小堂の民俗分布	佐々木卓也	呉工業高等専門学校
15. 総括	木下忠	文化庁

民俗分布のうえからの宮島の民俗

（栗原）：民謡はわからないが、友久先生にも協力をお願いしたい。

口頭伝承は、手掛かりが少ない。

若い女性のほうが、話を引き出しやすいので、そういう人を調査員に委嘱したいが、そ

の際の費用はどうするのか。

(藤井)：民具の調査では、ものの出し入れなどもあるので、協力していただける人を確保してほしい。

(竹中)：『建築編』の実測図が利用できれば、ありがたい。

(木上)：叙述の際の用語については、先生方の検討を待ちたい。

島外では、「島では、葬式ができない」などという誤った考えが伝わっているのでは、実情をふまえながら明らかにしたい。

(後藤)：年中行事では、弥山や寺院の行事をふくめてあつかってほしい。

3) 昭和61年6月14日 専門委員会(自然と人間編)、宮島中央公民館。

出席者：藤原健蔵氏、関太郎氏、水田国康氏、福岡義隆氏、林勝治氏、豊原源太郎氏、熊谷美登氏、山下欣二氏。

大島教育長、山田教育次長、編さん室員。

- 議題. 1、宮島町史の構成および刊行計画
2、『自然と人間』編の構成および分担
3、留意事項
4、その他

特論編『自然と人間』の構成と分担(案)

第1部 厳島の景観

特別史跡及び特別名称、国立公園(特別地域)としての宮島を景観論的に総体としてとらえる。

1. 歴史時代の自然観

歴史時代に厳島はどうみられてきたか。

図絵、文章等で表現されてきたもの。

2. 現代の自然観

町民はどうみているか。

旅行者の眼………旅行案内書、紀行文、感想など

外国人からみた宮島

カメラからみた宮島

3. 厳島の景観

学術的、文化的、行政的意義。

第2部 自然の諸相

各論的に述べる。

具体的事例を多くし、周辺地域との関連から説明する。

学術的意義を、明示する。

生態系として関連づける。

1. 地質・地形

2. 森林土壌		
3. 気候	福岡義隆	広島大学
4. 海況		
5. 植生	豊原源太郎	広島大学
6. 植物相	関太郎	広島大学
7. 陸上動物（さる、しか…）	林勝治ほか	宇部短期大学
8. 鳥類	熊谷美登	
9. 昆虫類	水田国康	広島農業短期大学
10. 水生動物	山下欣二	

※場所を選定しての共同調査——居住区、その他

第3部 自然と人間

1. 自然の利用

レクリエーションの場

探勝、ハイキング、釣、ヨット、海水浴、潮干狩……

生活基盤としての自然の利用

漁業、農業（野菜、果樹）、林業。

2. 災害

土砂災害、山崩れ、土石流……

高潮、風浪……

山火事、シカ、マツクイムシ……

3. 用水と排水

（関）：海草、プラントンなど海産植物のあつかいはどうするのか。

アンケートなどで町民の自然に対する疑問を把握してはどうか。

標本採集の許可手続きはどうするか。

国有林、公園内の入林許可の申請。

（山下）：水生生物では大きすぎるのではないか。

（水田）：昆虫の場合、何万種もあり、宮島を特徴づけるものしか扱いきれない。

シカの糞にふくまれる昆虫、ミヤジマトンボなどに限定される。

標本はどうするのか。

（藤原）：砂防堰堤による変化の記録。

後世へある時点の記録を残すことが、『自然と人間編』のねらいである。

写真、図版はカラー印刷を念頭に置いてもらいたい。

標本地区を設定しての共同研究の計画をはやくたてる。

小地名を入れた全島地図を作成する。

原稿提出：昭和62年12月末。

調査期間：約1ヶ年。

合宿調査でそれぞれの問題点を出し合い、討議する機会をもってほしい。

3、調査活動から

(1) 文献資料調査

- ①野坂家のご好意により、引き続き同家所蔵資料の目録作成、写真撮影をおこなう。後藤委員長はじめ、野坂元良宮司ほか大勢のかたのご協力をえた。何分大量の資料のため、引き続いての調査が望まれる。
- ②厳島神社のご好意により、厳島神社御文庫の目録作成、社務所内の明治期の記録の写真撮影を行なう。
- ③『地誌・紀行編』では、山口県文書館、柳井民俗資料館、松山市立子規記念館で、商人・文人・武士たちの来島記録を探し収集する。
- ④『文芸編』では、俳諧、和歌など宮島で詠まれたもの、宮島が題材にとりあげているもの、能・狂言などの関係資料を随時収集する。
- ⑤このほか厳島の砲台、公園関係の記録を収集する。

(2) 『石造物編』調査

島内に散在する石造物（燈籠、狛犬、玉垣など）の実測調査を定期的に行なう。
紀年銘（奉納年月日・奉納者名・石工、世話人など）、形態、所在分布などの整理分析や図面のトレース作業を行ないつつある。

(3) 『自然と人間編』調査

昆虫、トリ、水生生物、陸上動物など定期的な観察調査を実施している。

(4) 『民俗編』調査

①衣・食・住・生産・生業

昭和61年3月、8月、集中的に町内各家を訪ねる。仕事着や食器、道具などの写真撮影、実測をする。また、何を食べておられたかなど話を聞く。

②口頭伝承

昭和61年8月、町内各家を訪ね、言い伝えられている話を聞く。

③厳島信仰の伝播

神社本庁、厳島神社のご協力により厳島神社、祭神の全国的分布を調べる。

④小祠・小堂の民俗分布

所在箇所の確認と地図化を行なう。

たくさんの方に協力いただきました。お世話になった方々には、この場を借りてお礼申し上げます。

4、その他

町広報紙「町史の窓」

昭和60年10月 第18回 「広島県の建築④ 郷土学習講座より」

広報第322号

11月 第19回 「委員会から」

広報第323号

12月	第20回	「『四川省文物展』 郷土学習講座より」	広報第324号
昭和61年 1月	第21回	「昭和60年をふりかえって 郷土学習講座より」	広報第325号
2月	第22回	「外国人の見た宮島」	広報第326号
3月	第23回	「民俗編の調査をまえに」	広報第327号
4月	第24回	「日本の歴史区分」	広報第328号
5月	第25回	「専門委員会(民俗編)から」	広報第329号
6月	第26回	「宮島の砲台」	広報第330号
7月	第27回	「厳島神の神階」	広報第331号
8月	第28回	「荘園の成立」	広報第332号
9月	第29回	「『自然と人間』編」	広報第333号

133、明治七年厳島御神事能番組

一枚

昭和二年四月、厳島神社社務所から安部政次郎に贈られたもの。文面「永年引續き當社／桃花祭神能奉納／相成候段奇特の至に／存候 仍而茲に銀盃／一個を贈り旌表候也」。

タテ 180 mm × ヨコ 870 mm。木版刷り。「明治七年五月一日ヨリ」とし

て初日は翁付き能五番狂言三番、二日目は翁付き能六番狂言三番、三日目は能六番狂言四番の番組が印刷されている。狂言方として阿部政次郎、阿部新七、福田寿作、福田富吉の名が見える。明治期の神能番組の多くが散佚している現在にあつて貴重なものである。

130、金剛面・楽屋鏡寄進の覚え

一枚

タ 210 mm × コ 265 mm。一枚。「金剛面写石王兵衛／寛延三年二月二十八日／楽屋鏡 架共／宝暦四年 戌 三月朔日／富士屋／徳兵衛」とある。石王兵衛は永享二年（一四三〇）成立の『申楽談儀』にも見える越前の面作者である。金剛流に伝わる石王兵衛の面を模作したものを寄進したのであろう。

131、安部政治郎あて久保元三郎書状

四通

明治四十三年、饒津神社で祭神である浅野長政の没後三百年をまつる能が奉納されることになり、その出演者選定依頼等の打合せの書状である。

(ア)明治四十二年十一月十九日付書状。文面「拝啓追々寒サ相成／候得共愈御清適奉賀候。／陳ハ先般狂言番／組御書出相成候處／別紙之通御取極メ／相成候ニ付御尋申候間／御勤め之御人名／夫々御書入至急／御送付可被下候。此段／御依頼申上候。勿々以上／十一月十九日／東京市本郷通／弥生町三番地／浅野家内／久保元三郎／阿部政二郎殿／追而過日本文之通／御照会仕候處／為何御沙汰も無之／候ニ付再應又此度／御手数申上候儀ニ／御座候。御承知可被下候。以上」。

「別紙」とは(イ)を指すのであろう。

(イ)明治四十二年十一月十九日付書状。文面「来明治四十三年／長政公三百年／御相当ニ付同年／五月十五日／饒津神社御祭礼／之折柄同十六日十七日／両日同社内ニおゐて／浅野家より能楽御／奉納相成候。就而ハ先般／兼而貴家へ御依

頼／申狂言番組御認メ／被下候。早速／從一位様へ相伺候處／左之通御取極メ相成／候ニ付御勤め之御人名／夫々御書入早々御送／付可被下候。／初日／末廣狩／太刀奪／佛師／二日目／三本柱／文角力／猿座頭／以上／右之通御座候。以上／十一月十九日 久保元三郎／阿部政二郎様」。

(ウ)明治四十三年二月十日付書状。文面「拝啓餘寒嚴敷處／愈御清適奉賀候。陳ハ／来ル五月十五日／饒津神社祭典／ニ付兼而御承知之通り／同十六日十七日之両日／能楽御奉納之御豫定／之處猶引續十九日／廿日両日も矢張能楽／御奉納相成別紙／番組之通御取極／相成候付則御尋申候間／萬々御承知之上御勤め／方可然御依頼申上候。若／自然御存旨も候へハ丈／至急御申越し可被下候。／此段得貴意候。勿々以上／二月十日 久保元三郎／安部政次郎様／追而過日装束之／事御尋申上候處有／無之儀如何御座候哉。／是又御様子御聞せ／可被下候。此段も併テ／申上候。以上」。

(エ)明治四十三年三月七日付書状。文面「拝啓愈御清適奉賀候。陳ハ来ル五月／饒津神社へ浅野家／より御奉納能楽番／組下書御尋申候處／道成寺之間御役／筆者之誤リニ而相違／相成候由十川氏へ御申越／之由本人申出候間／早速喜多氏へ申聞福田富吉君ト安部和一郎／君御兩人ニ相直させ／申候ニ付御承知可被成候。／若シ外ニも何角相違／之儀も候へハ小生へ直接ニ御申／相成度此段為念申上候／勿々頓首／三月七日 久保元三郎／安部政次郎様」。

132、昭和二年四月付、安部政次郎あて感謝状

一通

タテ 240mm ×ヨコ 162mm。白色厚紙表紙。三冊とも厚みが15mmある。用紙の表には装束、作り物の欄を上部に、下に舞台の人物配置の変化を書き込めるようにした二十の空欄が印刷されている。三冊の内容は次の通り。

(ア) 狂言装束付

15枚に書かれているだけで、後は白紙。「末廣、目近、三本柱、麻生、蛭子毘沙門、蛭子大黒、大黒連歌」は墨書。「連歌毘沙門、福ノ神、松脂、鍋八撥、煎物、牛馬、宝ノ槌、よろい、隠れ笠、雁雁金、餅酒、昆布柿、筑紫奥、三人夫、八幡前、岡太夫、賽の目、庖丁鯨」は黒のペン書き。以上が装束付で、他に「朝比奈せめ」「大鼓モミ出シ、三番モミ出打掛り」「春毎」などを記す。

(イ) 狂言小舞

9枚に書かれ、後は白紙。狐塚小唄、養老三段ノ舞の型付(舞台図)、養老謡(型付注記。舞台図)、春毎(途中まで)、宇治の晒の型付(舞台図)、望月の間狂言。養老謡まではペン書き、後は墨書。

(ウ) 間狂言

8枚に書かれ、後は白紙。最初に「末廣」の装束付があるが、以下は間狂言のセリフが記されている。高砂、弓八幡、老松、養老、放生川。この次に「呉服」の曲名のみを記す。
125、『狂言手附及宮島おどりおんど』 ノート一冊

タテ 205mm ×ヨコ 163mm。灰色表紙のノート。ペン書き42ページ。三本柱(舞台図)。文蔵(主人の出演)。蛸(装束、仕型)。

126、狂言装束付断片

タテ 140mm ×ヨコ 233mm (片面)。1丁分一枚。左端に「五」とあるので元は五枚以上の装束付と分かる。
(靱猿)、秀句傘、二人大名、禁野、今参、栗田口、人馬、萩大名、雁礫、雁盗人
初日三番叟(型付)、同鈴之段、二日目、三日目セリフ。賣めの仕方。舞働之仕方。三段之舞。頼政セリフ。竜田・安宅・百萬等の仕方。花月・籠太鼓・葵上・邯鄲・高砂・三井寺・当麻・竜田・半部・黒塚・鉄輪等の間狂言の仕方の注意すべき所などを記し、途中に「鷺流、泉流立合くるしからず。尤、釣狐、花子、道成寺などの類は無用。都て立合無用。弥太郎様御まへにて決るなり」の記事、「国文大夫吉高」の署名の写しがある。「蛸」の後に、宮島踊音頭の古八、桜川、落人、御所車、小三金五郎、お染久松、遠山の詞章が書かれている。

一枚

127、三段ノ仕舞付

タテ 240mm ×ヨコ 166mm。青色野紙に墨書。下部は破損。「一ぱひく又一ぱひ」から型付等を記している。

一枚

128、『海人 玉之段』

タテ 245mm ×ヨコ 166mm。三枚。5行書き。能「海人」の一節である「玉之段」は、狂言謡としても謡われるものである。

三枚(一曲)

129、『道成寺』

タテ 160mm ×ヨコ 245mm。六枚。鳥の子紙。10行書き。能「道成寺」の詞章を記したもの。朱入り。

六枚(一曲)

188-70

- 119、安政五年安部新七筆写大蔵八右衛門派『**狂言習**』 一冊
 タテ 120 mm × ヨコ 177 mm。仮綴。共表紙。表紙に「**狂言習**／大蔵流」と墨書。奥書に「弘化四年^{丁未}正月／国楽長狂言大夫八世／

188-113

- 118、間狂言「弱法師、松風、大江山、舟弁慶」 一枚（4曲）
 タテ 150 mm × ヨコ 222 mm（片面）。半紙二つ折り。片面に「弱法師、松風、大江山、他の面に「舟弁慶」の間狂言を記す。

〔伝書・その他〕

188-112

117、間狂言「頼政」

タテ 235 mm × ヨコ 165 mm（片面）。片面10行。アイは「宇治の里に住居する者」。

一枚（1曲）

188-61

116、間狂言「養老」

タテ 250 mm × ヨコ 170 mm。半紙二つ折り。綴穴あり。五枚のうち、二枚に「養老」、一枚に「養老二ノ間」、残り二枚に「養老間」と題し、三種の詞書を記す。

五枚（1曲）

188-60

115、間狂言「八嶋」

タテ 242 mm × ヨコ 180 mm。10行野紙二枚。

二枚（1曲）

188-59

114、間狂言「望月」

タテ 130 mm × ヨコ 186 mm。仮綴。墨付2丁。片面14行書き。型付を朱で割注。

一冊（1曲）

188-110

113、間狂言「三井寺」

タテ 245 mm × ヨコ 165 mm（片面）。青色野紙。片面10行。アイは「清水寺の門前に住居する者」。

一枚（1曲）

する／川岸の／ね代の柳……」と謡うものである。

188-118

- 124、白色厚紙表紙狂言伝書 三冊
 123、式三番等大小手附 一冊
 タテ 141 mm × ヨコ 232 mm。仮綴。墨付13丁。縦横に線を引き、その横に第一拍子から第八拍子と活字印刷した八ツ割譜に、大小の手附を記す。一声、脇鼓、モミ出シ、鈴之段、次第。

188-69(イ)

122、三番叟笛の譜

タテ 255 mm × ヨコ 177 mm（片面）。罫紙。糊付け。2丁。「**舌**」「**鈴之段**」として三番叟の笛の譜を記す。

一冊

188-69(ロ)

121、「大鼓モミ出シ」

タテ 240 mm × ヨコ 174 mm（片面）。2丁分二枚。「大鼓モミ出シ」として大鼓の譜を記す。揉出とは、三番叟の舞の一部である。

二枚

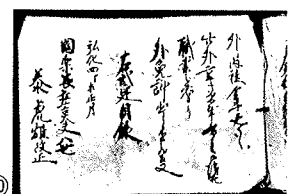
188-69(イ)

120、「脇鼓」

タテ 240 mm × ヨコ 165 mm。仮綴。5丁。「脇鼓」として小鼓の譜を記す。脇鼓とは、「翁」を囃す小鼓方三人のうち、左右の役を指す。朱にて「ヲドリノベ」「翁ノ舞」等の注記がある。

一冊

真⑩



100、間狂言「道成寺、八島」

人／龍虎(吉村)

一冊(2曲)

タテ 240 mm × ヨコ 170 mm。半紙本。12丁。内題は「道成寺間」。片面7行書き。型付を割注。本文の後に各流派の違いを細字にて記す。「八島」は5丁。昭和49年寄託の安部伴蔵正治筆写狂言小舞(正12)と装丁、筆跡が似ている。

101、高木松助筆写「道成寺間」

一冊(1曲)

タテ 243 mm × ヨコ 170 mm。半紙本。仮綴。表紙の題記の横に「宮島伊藤氏」と墨書。内題は「道成寺間セリフ」。片面4行で大きな字で書かれている。最後に「伊藤氏門人 高木松助写」とある。全8丁。

102、道成寺間「セリフ」

一枚(1曲)

半紙四つ折り。一面タテ 150 mm × ヨコ 220 mm。上部二面のみに墨書。一枚。「道成寺ワキセリフ」(16行)と題してシテとアイとのセリフを記し、次に「脇セリフ」(20行)を記す。この分の表紙と思われる「道成寺間^{但シテ}脇セリフ」と書いたもの(タテ 135 mm × ヨコ 220 mm)がある。

103、「道成寺間」

一冊(1曲)

タテ 135 mm × ヨコ 217 mm。共表紙。糊付け。墨付6丁。片面12行書き。最後に簡単な装束付がある。役名、型を朱で記す。

104、間狂言「橋弁慶」

一冊(1曲)

タテ 145 mm × ヨコ 230 mm。仮綴。全3丁。片面12行書き。

105、間狂言「芭蕉」(簡略メモ)

一枚(1曲)

タテ 230 mm × ヨコ 95 mm。「芭蕉」の間狂言の部分部分を簡略に記し

106、間狂言「鉢木」

二枚(1曲)

たもので、暗唱用の心覚えであろう。

タテ 135 mm × ヨコ 170 mm。2丁分二枚。片面13行書き。綴穴あり。

アイは「最明寺殿御内に仕へ申者」。

107、間狂言「舟弁慶、芭蕉」(脇セリフ)

一冊(2曲)

タテ 115 mm × ヨコ 162 mm。共表紙。表紙左端に「語之部」、右下に「蔵島 梶山周」と墨書。墨付4丁。片面9×10行書き。脇の

アイとの応答の文句を記す。最後に「泉せん安田／城中桜田／安野田畑主殿正」とある。

108、間狂言「舟弁慶」

二枚(1曲)

タテ 165 mm × ヨコ 244 mm(片面)。二枚。一枚(イ)には「船弁慶送り」「白波」(22行)、もう一枚(ロ)には「船弁慶舟唄」(21行)を記す。

109、間狂言「舟弁慶」

二枚(1曲)

タテ 240 mm × ヨコ 165 mm(片面)。二枚。片面10行書き。綴穴あり。

110、間狂言「舟弁慶」

一冊(1曲)

タテ 142 mm × ヨコ 200 mm。糊付け。2丁。片面13行書き。脇セリフは朱で割注。最後に朱で「切ノ心得」を記す。

111、間狂言「舟弁慶」

一枚(1曲)

タテ 140 mm × ヨコ 202 mm。1丁分一枚。朱で脇セリフ、アイは墨書。「武蔵殿ニハコウく奥の間へ御通り候へ」まで。

112、間狂言「舟弁慶舟唄」

一枚(1曲)

タテ 240 mm × ヨコ 267 mm。「舟唄」は「舟弁慶」の替間で、脇の所望によりアイが、「やらん目出度く御世は納り浪風静に漕よ

93、間狂言「石橋」

タテ 140 mm ×ヨコ 198 mm (片面)。1丁分一枚。片面13行書き。途中

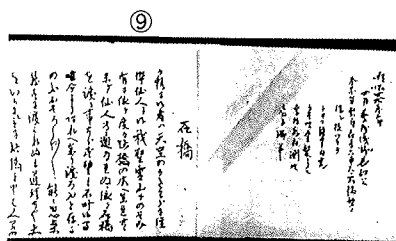
一枚 (1曲)

92、安部和一郎正弘筆間狂言「石橋」

一冊 (1曲)

タテ 125 mm ×ヨコ 168 mm。仮綴。表紙とも4

丁。片面11行書き。表紙中央に「間石橋」と墨書。表紙見返しに「明治四十参年四月藝州浅野長政公参百年祭二付喜多平太石橋務メ」、裏表紙に「安部和一郎正弘勤之写」とある。91と同筆。(写真⑨)



91、安部和一郎正弘筆間狂言「石橋」

一冊 (1曲)

タテ 120 mm ×ヨコ 170 mm。仮綴。表紙とも4丁。片面11行書き。表

紙中央に「石橋間」と記し、各種の判を押す。裏表紙に「明

90、間狂言「志賀」

一冊 (1曲)

タテ 241 mm ×ヨコ 167 mm (片面)。「是永製」とある青色野紙使用。片面10行書き。「鞍馬天狗」「道成寺間ツレ」「夜討曾我」と題し、それぞれ一枚ずつ。

99、間狂言「藤栄」

一枚 (1曲)

タテ 354 mm ×ヨコ 495 mm。四つ折りにし、一面10×11行書き。型付

98、間狂言「檀風、安宅」

一枚 (2曲)

タテ 145 mm ×ヨコ 230 mm。仮綴。3丁。片面11×14行書き。片面12行書き。安部新七の筆跡に似ている。

97、間狂言「須磨源氏、吉野静、老松」

一冊 (3曲)

タテ 144 mm ×ヨコ 230 mm。共表紙。表紙中央に曲名墨書。墨付5丁。本文32行。

96、間狂言「石橋」

一枚 (1曲)

タテ 156 mm ×ヨコ 405 mm (片面)。片面のみに記述。最初の部分欠損。「石橋」と題して、アイの語りを記す。

95、間狂言「石橋」

一枚 (1曲)

タテ 155 mm ×ヨコ 240 mm。一枚。右半分には、朱で「尾道うし寅ノ神事」能二付/道成寺/石橋 道成寺」と記し、左半分は

94、間狂言「石橋」

一冊 (1曲)

タテ 123 mm ×ヨコ 170 mm (片面)。仮綴。墨付3丁。片面9行書き。表紙中央に「石橋」と墨書。

を朱で加える。最後に、桃花祭の時のものと思われる能組があり、間狂言の演者名を記す。「初日/三本柱 此分何か清水/二日/蚊相撲 薩摩守 飛越/三日/いろは 清水 此分何か/弓八幡 (米田) 箆 (米田) 小塩 (米田) 小袖 (金五郎) 土蜘蛛/加茂 (米田) 忠度 (吉村) 松風 (鶴) 藤戸 (米田) 大蛇 (吉村) 竜田 (米田) 行家 藤永 (大刀持 吉村) 葵上 (徳田) 海

188-103

- 77、間狂言「嵐山」
一枚（1曲）
の下に「西川」と署名。アイは「須磨浦に住居する者」。

タテ 140mm × ヨコ 225mm（片面）。半紙横折り。片面12行書き。アイは「芳野の蔵王権現に仕へ申末社の神」。

188-50(イ)

- 78、間狂言「嵐山猿聲」
二枚（1曲）

タテ 165mm × ヨコ 240mm（片面）。2丁分二枚。綴穴なし。「猿聲」と朱で題名を記す。「猿聲」は「嵐山」の替間。片面8、9行書き。朱にて型付。装束付もある。

188-50(ロ)

- 79、間狂言「嵐山猿聲（附、石橋）」
一冊（1曲）

タテ 143mm × ヨコ 260mm。5丁。糊付け。片面13行書き。一丁には「石橋」の最後が記され、二丁表に「猿聲」、三丁表にも「猿聲」と題し、同じものを書き留めている。78と同内容で、朱注も同じ。

188-104

- 80、間狂言「江口」
三枚（1曲）

タテ 140mm × ヨコ 195mm。3丁分三枚。綴穴なし。一枚は「江口脇セリフ」としてアイを呼び出す脇のセリフが書かれ、他の二枚には「江口」としてアイ（所の者）のセリフが記されている。

188-105(イ)

- 81、間狂言「熊坂」
二枚（1曲）

タテ 245mm × ヨコ 170mm（片面）。「永井製」とある青色野紙使用。片面10行。ペン書き。吉村嘉穂氏の手か。最後に型付。

188-105(ロ)

- 82、間狂言「熊」
一枚（1曲）

タテ 141mm × ヨコ 224mm（片面）。1丁分一枚。綴穴あり。83とほぼ同内容。

188-106

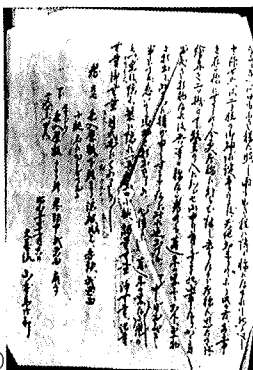
- 83、間狂言「熊、頼政、葵上」
一冊（3曲）

タテ 140mm × ヨコ 200mm。糊付け。3丁。片面11行書き。朱で漢字の読み等を記す。

188-80

- 84、山本東次郎筆間狂言「絵馬」
一枚（1曲）

タテ 277mm × ヨコ 200mm（片面）。半紙二つ折り。「大蔵流 絵馬」と題し、最後に「昭和十一年十一月十六日／大蔵流 山本東次郎」とある。



188-51(イ)

- 85、間狂言「加茂御田」
一枚（1曲）

タテ 235mm × ヨコ 330mm。一枚。18行。本文は途中までで、「まつり納て声をあげ」で終っている。朱にて型付。〔写真⑧〕

188-51(ロ)

- 86、間狂言「加茂御田」
一冊（1曲）

タテ 140mm × ヨコ 225mm。仮綴。墨付3丁。片面12行書き。これも84同様、「加茂」の替間。

188-52

- 87、間狂言「熊坂」
一枚（1曲）

タテ 243mm × ヨコ 167mm。一枚。18行。

188-107

- 88、間狂言「鞍馬天狗」
一枚（1曲）

タテ 240mm × ヨコ 165mm。野紙。10行。題名の前に「平の」の署名。アイは「鞍馬の奥僧正が谷に住（む）木の葉天狗」

188-62

- 89、間狂言「鞍馬天狗、道成寺、夜討曾我」
三枚（3曲）

70、
替間集

王、舟橋、小塩、夕顔、浮舟、梅ヶ枝、鐘馗、阿羅尼落葉、鶴、實盛、葛城、項羽、融

一冊(17曲)

タテ 132 mm ×ヨコ 188 mm。濃い小豆色(黒に近い)表紙中型横本。

題簽なし。墨付35丁。片面18行書き。替の間狂言を集めたもの。昭和49年寄託の伊藤源之丞吉高署名間狂言台本(正14)の中の「谷行」など同筆。丁寧に書かれ、朱で装束付などが記されている。所収曲は次の通り。目録、および本文の題名に付記されている記事の中で※印の文字は難読で、偏が「シ」、旁が「泰」である。

春日龍神、賀茂御田、嵐山猿聲、白樂
天鶯蛙、養老薬水、白髭道者、江之嶋
道者、輪藏鉢叩、東僧、道成寺、上掛
道成寺、八嶋那須、朝長懺法、石橋、
望月、源氏供養、老松松笠、猿顰(仕
舞付)、薬水(仕舞付)、東僧(云※)、
同(云※)、道成寺(仕舞付)、那須(替
セリフ)、大社(仕舞付)、石橋(云※)、
春日龍神(云※)、同(云※)、同(云※)、同(云※)、
同町積、同草間、同彌猴(是ハ大蔵ニハ不用)、同社人(上
掛ノ間大蔵流ニ用ズ)、養老語間、白樂天弓矢間(写真⑦)

71、
『傳間手附本』

タテ 140 mm ×ヨコ 225 mm。樺色表紙中型横本。表紙左端に題記。表

紙は活字印刷の文字が見られるものを使用している。30丁。

一冊(7曲)

72、
十一番綴間狂言台本

片面12行書き。内容は替の間狂言を集めたもの。朱にて型付、役名を記す。曲によってはかなり詳しい型付がある。
白髭道者、加茂御田、嵐山猿聲、船弁慶替間、八嶋間那須、春日龍神猿之間、朝長

一冊(11曲)

タテ 142 mm ×ヨコ 227 mm。仮綴。表紙なし。表に題名を記した野紙

(タテ 85 mm ×ヨコ 175 mm)があるが、本文とは別筆。墨付13丁。片面14行書き。「鱗形」で、天女とか弁財天とある部分には朱で明神と傍記。一丁目は虫損といったみが激しい。

海人、鱗形、愛宕空也、電電、松風、善千鳥、大蛇、殺生石、飛雲、土蜘蛛(蛛)、羅生門

73、
六番綴間狂言台本

一冊(6曲)

タテ 145 mm ×ヨコ 235 mm。仮綴。11丁。片面13〜18行書き。1と同筆か。

知章、大江山、船弁慶、黒塚、班女、大會

74、
間狂言「芦刈」(脇セリフ)

一枚(1曲)

タテ 140 mm ×ヨコ 298 mm。一枚。21行。脇のアイとの応答部分を記す。

75、
間狂言「安宅」

一枚(1曲)

タテ 170 mm ×ヨコ 240 mm。一枚。アイの「おれが衣は鈴掛の破れてことやかぎぬらん」から「山伏は貝吹て社逃にけり。誰をひかけておびらうんけん」までの詞章を記す。

76、
間狂言「敦盛」

一枚(1曲)

タテ 240 mm ×ヨコ 165 mm(片面)。半紙二つ折り。片面11行書き。題

68、
飯綴間狂言台本

タテ 140 mm ×ヨコ 220 mm。飯綴。表紙なし。56丁。片面12行書き。

1と同筆か。

一冊(46曲)

67、
安部氏署名紺表紙間狂言台本

二冊(99曲)

タテ 138 mm ×ヨコ 220 mm。紺表紙中型横本。二冊とも題簽なし。66

と同筆か。

(ア) 墨付55丁。片面12行書き。66と同内容で、「田村」以下51

曲所収。66の本文に朱で補足している部分が本文にとり入れられている。最後に「中江安部」とある。

(イ) 墨付45丁。片面12行書き。最後に「安部氏」とある。48曲所収。

唐船、百萬、西行桜、花月、班女、小督、愛染川、竹雪、邯鄲、蟬丸、鳥追舟、山姥、盛久、天鼓、藤戸、三井寺、吉野静、国栖、大江山、正尊、船弁慶、七騎落、雲雀山、鉄輪、土車、綾鼓、東岸居士、自然居士、禅師曾我、小袖曾我、調伏曾我、元服曾我、高野物狂、烏帽子折、碓、護法、満仲、摂待、千引、籠祇王、水無瀬、大原御幸、木賊、二人静、車僧、朝長、求塚、谷行

69、
慶応四年福田氏筆間狂言台本

一冊(51曲)

タテ 140 mm ×ヨコ 227 mm。飯綴。表紙はなく目録から。裏に「慶應

四年／辰八月十一日書写仕候／福田墨消／墨消(花押)／調之」とある。4の嘉永五年福田寿作筆五番綴狂言台本と同じ大きさであり、筆跡もよく似ており、墨消部分は「寿作／忠正」なのかもしれない。72丁。片面14行書き。本文の題名によると次の通り。

高砂、老松、弓八幡、志賀、放生川、岩舟、芳野、呉服、淡路、御裳濯、佐保山、右近、松尾、草雉、葛城加茂、白鬚、嵐山、源太夫、鵜祭、富士山、寝覚、和布刈、放生川、岩舟、白樂天、加茂、九世戸、道明寺、難波、養老、氷室、玉井、竹生島、金札、東方朔、絵馬、雨月、江島、大社、浦島、合甫、逆鉾、伏見、月宮殿鶴亀トモ、西王母、皇帝、鷲、小鍛冶、

「養老」の最後から「鷲」まで一括して反対に綴じている。本文の題名の上に国名を記しているものもある。「放生川」と「岩舟」とが重複しているが、登場人物が所の者と鱗の精(放生川)、所の者と末社の神(岩舟)と、それぞれ別の詞章を書き留めている。

64、紺表紙間狂言台本

一冊(44曲)

熊谷、邯鄲、三井寺

タテ 134mm × ヨコ 223mm。紺表紙中型横本。題簽なし。裏表紙は、はすれている。墨付46丁。片面12行書き。1と同筆、同装丁。所収曲は目録によると次の通り。

海人、鱗形、愛宕空也、電電、殺生石、舍利、飛雲、龍虎、大蛇、張良、土蜘蛛、羅生門、弦上、是界、現在鶴、鉢木、檀風、紅葉狩、輪藏、三笑、室君、三輪、大佛供養、関原与市、夜討曾我、鞍馬天狗、葛城天狗、大會、咸陽宮、松風、楊貴妃、善知鳥、芦刈、葵上、巻絹、放下僧、弱法師、箆太鼓、春栄、藤永、安宅、住吉詣、富士太鼓、行家

最後の「行家」に「此能ハ当時諸流共ナシ」との注記がある。

65、伊藤源之丞吉高署名間狂言台本「五」

一冊(30曲)

タテ 138mm × ヨコ 220mm。雷文繫ぎ(押型)白表紙中型横本。左端に貼付された金地の題簽は大部分が剝落し、「間」の一字のみ残存。墨付57丁。片面13行書き。背に「五」と朱書き。昭和49年寄託の伊藤源之丞吉高署名間狂言台本(正14)と同装丁のもので、今回調べ直したところ、正14の方にも背に「十」との朱書きがあり、正14の解説に元は九冊以上の揃本としたが、十冊以上あったことが判明した。正14には珍しい曲が収められており、おそらく全冊数は十冊程度と思われる。この冊にも裏表紙見返しに「吉高」との署名が

ある。所収曲は次の通り。

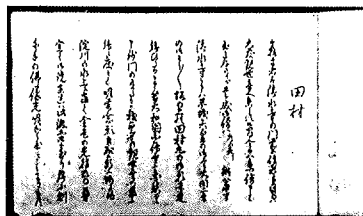
1花月、2黒塚、3貴布祢、4清重、5三井寺、6藤戸、7芦刈、8嵐山、9葛城、10當麻、11鉄輪、12小塩、13野宮、14項羽、15行家、16咸陽宮、17俊成忠度、18鐘馗、19安宅、20鶴、21巴、22吉野静、23敦盛、24知章、25井筒、26竹生島、27禪師曾我、28龍虎、29葵上、30梅枝、「三、貴布祢」は目録、本文の題名ともに紙を貼付し、題名が見えぬようにしている。目録の注記に「鉄輪同断」とあり、「十一、鉄輪」の方にも「貴布祢同断」とある。「鉄輪」は古く「貴布祢」とも呼ばれており、重複として「鉄輪」の曲名で統一したいがための所為であろう。目録の「八、嵐山」には「猿轡六二有」、「十七、俊成忠度」には「下カ、リニハ間なし。金春、金剛、喜多」との注記がある。曲によつては、最後に簡略な装束付がある。

66、型押紺表紙間狂言台本

一冊(51曲)

タテ 134mm × ヨコ 220mm。唐花亀甲繫ぎ(型押)紺表紙中型横本。題簽なし。目録の曲名の下に朱で「四十九」から「九十九」の丁数番号を付し、各丁表の左上の番号と対応させている。墨付58丁。片面12行書き。所々朱にて読み仮名をつける。安部新七の手か。

田村、簾、兼平、八島、實盛、通盛、頼政、忠度、碇潜、知章、巴、



64、

「海道下り、喜多流邯鄲傘之出」

一枚（2曲）

タテ 120 mm × ヨコ 161 mm（一面）。半紙四つ折り。薄青色のぼかしが四隅と中にある。「海道下り」は15行書きで、節付がある。

63、

狂言謡

一枚（5曲）

タテ 245 mm × ヨコ 168 mm。十二行の野紙。欄外に「緑樹影沈で」との「竹生島」の一節を記す。節付あり。所収曲は次の通り。

春毎、桑弓、十七八、いちゃ、一枝。

62、

狂言謡

四枚（8曲）

タテ 245 mm × ヨコ 170 mm（片面）。半紙二つ折り四枚。片面8行書き。

土車、宇治のさらし、七ツに成る子、駿河舞、あわれひとゑだ、道明寺、はるごと、いと物ほそき、明星（本文なし）

61、

平野署名狂言謡「あんの山」

一枚（1曲）

タテ 250 mm × ヨコ 118 mm。一枚。四行。「平野」と署名がある。

毎、下に「道明寺」、他の一枚に「船弁慶白波」を記す。

60、

「春毎、道明寺、船弁慶白波」

二枚（3曲）

タテ 120 mm × ヨコ 325 mm（片面）。半紙横折り二枚。一枚の上に「春毎、鵜飼、海人、放下僧、景清、盃、桑弓、一枝、土車、湯谷、住吉、駿河舞、小原木、三人夫、雁かりがね、松樸、宇治のさらし、七ツに成子、いと物ほそき、明月明星、あんのやま、海道下り、餅酒、風車、朝比奈の笛の譜、三段ノ舞。

63、

間狂言脇セリフ

一冊（113曲）

「喜多流 邯鄲傘之出」は19行書きで、型付を詳しく記す。最後に「右ハ嘉永元年九月廿三日／藤堂和泉守様ニ而初メテ申合アリ／御勤メ之事」とある。

〔間狂言台本〕

タテ 140 mm × ヨコ 225 mm。小豆色表紙中型横本。題簽なし。目録の各曲に丁数番号を付す。その番号は「四十八」まで。墨付51丁。片面12行書き、アイと応答する脇のセリフが書かれている。1と同筆か。所収曲は次の通り。

高砂、弓八幡、老松、養老、放生川、呉服、佐保山、難波、志賀、淡路、御裳濯、逆鉾、竹生島、氷室、金札、東方朔、右近、田村、八嶋、頼政、知章、簾、忠度、敦盛、巴、錠被、兼平、實盛、朝長、通盛、東北、芭蕉、妾女、定家、野々宮、井筒、夕顔、六浦、佛原、胡蝶、江口、誓願寺、松風、半部、龍田、三輪、遊行柳、西行桜、梅枝、浮船、玉葛、錦木、女郎花、阿漕、融、熊坂、当磨、三井寺、花月、善知鳥、舍利、鵜飼、鵠、殺生石、鉢木、藤永、春日龍神、望月、放下僧、項羽、吉野静、烏帽子折、雲林院、安宅、自然居士、唐船、竹ノ雪、東岸居士、芦刈、海人、山姥、小塩、籠太鼓、俊寛、百萬、住吉詣、富士太鼓、巻絹、班女、二人静、大原御幸、草子洗小町、葛城、船橋、野守、黒塚、葵上、舟弁慶、大江山、咸陽宮、楊貴妃、鐘馗、大瓶狸々、天鼓、藤戸、春栄、盛久、竹雪、鳥追船、紅葉狩、

56、安部・佐伯家狂言謡

一冊(延25曲)

タテ 143 mm × ヨコ 217 mm。仮綴。表紙なし。18丁。片面14〜16行書き。「放下僧」「道明寺」「八小弓」など重複して記載されているが、題の下に「阿部写」「阿」「佐」などとあり、安部

〔狂言謡〕

は「^は廃大名」と読むのであろうか。

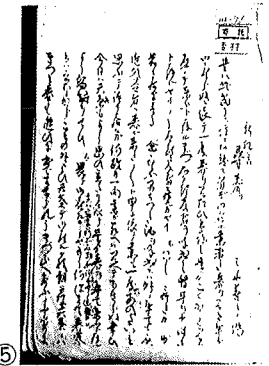
第九号 昭和59年)によると、「^は廃大名」は明治10年に新作発表された(『団団珍聞』第11〜13号へ明治10・6・2〜16)とのことで、「^は萩大名のモジリ」と付記しておられる。題名は「^は廃大名」と読むのであろうか。

55、『^は廃大名』

一冊(二曲)

タテ 240 mm × ヨコ 165 mm。表紙中央に題記。表紙とも6丁。片面10行書き。内容は、「大名でござった者」が、「開化」の様子に驚きつつ、芝居小屋に入り、静御前、佐藤忠信に感じ入って、茶屋に羽織、袴、小袖を与えてしまうというものである。西野春雄氏の「近代前期の新作謡曲」(『能楽研究』

ろうか。中に「昔シア
ビシニアの幸ヶ谷ト云
ふ所にラセラスと云ふ
プリンスがおりやて、
何不自由なふくらし
て居られたが、なをも幸
福ヲ求めるために世界ヲあちらと歩かれた」などの
話が見える。明治以後の新作狂言であろう。(写真⑤)



59、狂言謡(付、朝比奈の笛の譜)

二十四枚(26曲)

タテ 140 mm × ヨコ 200 mm。24丁分二十四枚。留金具が失われバラバ

あわれ一枚、(祐善、祐善)

土車、宇治のさらし、七ツに成子、うかひ、(蛸)、(放下僧)、

所収曲は次の通り。題のないものは()に入れて補った。

行書き。綴穴なし。小舞謡を墨書し、朱で型付を傍記する。

58、狂言小舞型付

八枚(延9曲)

タテ 240 mm × ヨコ 160 mm(片面)。半紙二つ折り。八枚。片面5〜10

き、明星、あんのやま、はち小ゆみ、住吉詣

駿河舞、哀れひとゑだ、うかひ、はるごと、いと物ほそ

記されている。朱で型付。所収曲は次の通り。

57、大蔵流狂言謡

一冊(9曲)

景清

家、佐伯家等の家ごとに伝えられた詞章、型付の違いを見るための所為と思われる。曲によっては手が違う。所収曲は次の通り。題名のないものは()で補った。

同(放下僧)、放下僧、放下僧仕舞付、景清、道明寺小舞仕舞、道明寺、海人仕舞付、八小弓、八小弓、一天四海波、あわれ一枚、十七八、宇治のさらし、あんの山、七ツ子小舞、鶴かひ、土車、七ツ子成子、泉郎玉ノ段、春毎ノ小舞、(あか月の明星)、いと物、(春毎に)、鶴飼、

(46)

53、
『宮島詣』

タテ 250mm × コ 170mm (片面)。仮綴。3丁。片面10行の野紙使用。野紙中央に「厳島神社」と印刷。本文は墨筆。宮島詣に出

一冊 (一曲)

188-28

52、
『呼聲』

タテ 245mm × コ 170mm。片面12行の野紙使用。仮綴。4丁。役名の「太郎」、「次郎」、「主」は朱。題記あり。

一冊 (一曲)

〔新作狂言〕

188-95 (イ)(ロ)

51、
『祐善』

タテ 243mm × コ 170mm (片面)。半紙二つ折り。二枚。(イ)一枚には「脇」として「扱もくふしぎ成事にて候。所の人に尋ばやと思ひ候。所の人の渡り候か」との、能で言えば脇に当たる役目を担うアドのセリフを記す。(ロ)もう一枚の方には、「間」として、これも能でいえばアイに当たる役の「所の者との御尋は」以下のセリフを記す。

二枚 (一曲)

188-94

50、
『祐善』

タテ 245mm × コ 168mm。共表紙。表紙に「祐善」と墨書。4丁。片面6〜8行書き。表紙左下に「吉村」と鉛筆で署名。鉛筆の型付あり。止め金具二個使用。

ガリ版印刷本一冊 (一曲)

188-93

49、
『胸突』(後半)

タテ 122mm × コ 340mm (片面)。半紙横折り。片面31行と28行書きで、後半部分が記されている。

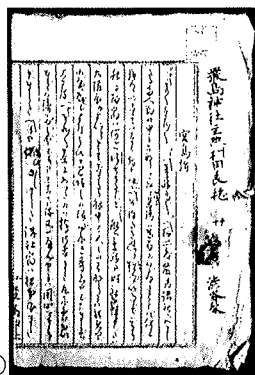
一枚 (一曲)

188-71

54、
『新狂言 尋春』

タテ 245mm × コ 173mm (片面)。半紙二つ折り四枚。片面11行書き。表紙はなく、「新狂言 尋春」三木善三ノ作」とある。内容は、春を見たことがないという「此当りに住居致ス者」が、山を尋ね、野を尋ねるが出逢えず、我が家の庭で春を見出すというものである。題は「春を尋ねて」とでも読むのだ

四枚 (一曲)



④

言といえ、明治20年頃までに筆録されたものと思われる。実際に上演されたかどうかは、明治期の桃花祭神能の記録がほとんどない(明治7年と明治41年以降は現存)状態なので不明である。〔写真④〕

向いた二人が「心も直にないもの」に廻廊の絵馬等を説明してもらう筋で、途中まで。余白に「厳島神社主典村田良穂」「厳島神社宮司渋谷栄」「福田富吉殿」「熊野卯三郎殿」「飯田篤之助」「明治二年六月 一金貳拾五錢 小西保次郎」「本社雇使」「三浦茂人」など、本文とは別筆の記載がある。吉村嘉宏氏が厳島神社からお聞きになったところによると、村田良穂氏(明治17年没)が主典だったのは明治11年から、渋谷栄氏(明治21年没)が宮司になられたのが明治20年からのことである。本文中に、鳥居の額の文字は有栖川熾仁親王(明治28年没)の御筆とあるので、明治になってからの新作狂言といえ、明治20年頃までに筆録されたものと思われる。

- 188-18
41、「花子」(後半) 一冊(一曲)
タテ 185 mm × ヨコ 130 mm。共表紙で表は剝落、裏表紙も含んで14丁。片面9行書き。本文は途中から。『大蔵流伝書』(正16)と
- 188-17(ロ)
40、「花子」 十五枚(一曲)
タテ 143 mm × ヨコ 230 mm。15丁分十五枚。片面8〜9行。のどの所に「三」「十四」「十七」「廿一」「(不明)」との丁数を示す番号を付記。
- 188-17(イ)
39、「花子」(前半) 一冊(一曲)
タテ 145 mm × ヨコ 230 mm。仮綴。4丁。片面12行書き。女房が太郎冠者と座禅を入れ替わるところまで。1と同筆か。
- 188-120
38、「八句連歌」(シテのセリフ) 一枚(一曲)
タテ 122 mm × ヨコ 280 mm。半紙横折り。片面22行。居留守がばれて、シテがアドの家に伴われ、家具調度を褒め、懐紙の手跡は誰と聞くとどこまで。シテのセリフのみを記し、セリフの最初を△で示す。
- 188-27(ハ)
37、「祢宜山伏」(祢宜の祈り) 一枚(一曲)
タテ 242 mm × ヨコ 168 mm。10行の野紙。「詞」として、「夫天照太神ト申ハ」以下の「祢宜山伏」の祢宜が大黒を影向させようとして祈る文句を記す。46、48と同筆。
- 188-96(ロ)
36、「釣狐」(アドのセリフ) 一枚(一曲)
タテ 124 mm × 348 mm(片面)。半紙横折り。上部のみで29行。走り書き。アドが罫を仕掛ける部分のセリフ。
- 188-27(ロ)
43、「附子」(主人のセリフ) 一冊(一曲)
タテ 133 mm × ヨコ 189 mm。糊付け2丁。片面9〜10行。薄墨。主人のセリフのみを書いたもの。セリフの初めには○印を付す。
- 188-91
42、「附子」 ガリ版印刷本一冊(1曲) × 2
タテ 145 mm × ヨコ 235 mm。片面15行。6丁。止め金具二個使用。同じものが二冊ある。
- 188-15
45、「佛師」 一冊(一曲)
タテ 141 mm × ヨコ 225 mm。仮綴。表紙なし。6丁。片面13行書き。1と同筆。内容は虎光本「十五」所収の「佛師」と同じだが、文字遣いに若干の違いが見られる。
- 188-90
44、「二人大名」 ガリ版印刷本一冊(1曲)
タテ 135 mm × ヨコ 197 mm。10丁。片面13行書き。一丁目の用紙は修繕費等の金額を記したものの裏が使われている。吉村嘉穂氏の手か。
- 188-27(イ)
46、「文角力」(太郎冠者のセリフ) 一枚(一曲)
タテ 242 mm × ヨコ 168 mm(片面)。片面10行の野紙使用。1丁分一枚。太郎冠者のセリフのみを書いたもので、途中まで。題記あり。37、48と同筆。
- 188-22
47、「棒縛り」 一冊(一曲)
タテ 250 mm × ヨコ 170 mm。仮綴。6丁。片面10行書き。役名は朱で「主」、「太」、「次」と記す。13と同筆。
- 188-27(ロ)
48、「水掛罫」(罫のセリフ) 一冊(一曲)
タテ 242 mm × ヨコ 168 mm(片面)。仮綴。2丁。罫のセリフのみを記す。

188-88(ロ)

28、「芯奪」(アドのセリフ)

一枚(1曲)

188-88(イ)

27、「芯奪」(シテのセリフ)

一枚(1曲)

188-16(ノ)

26、「宗論」

一冊(1曲)

188-87

25、「止動方角」

一枚(1曲)

188-86

24、「三本柱」(次郎冠者のセリフ)

一枚(1曲)

188-33

23、「三人片輪」(あんの山、宇治のさらし)

一枚(4曲)

筆。
タテ 250 mm × ヨコ 170 mm。仮綴。3丁。片面14行書き。10、11と同

188-96(イ)

35、「釣狐」(前半)

二枚(1曲)

188-26

34、「釣狐」

五枚(1曲)

188-19

33、「釣狐」(問答セリフ)

一冊(1曲)

188-32

32、「墨塗」

ガリ版印刷本一冊(1曲)

188-14

31、「酔はじかみ」

一冊(1曲)

188-89

30、「素袍落し」

四枚(1曲)

188-31

29、「末広がり」

ガリ版印刷本一冊(1曲)

タテ 144 mm × ヨコ 227 mm (片面)。二つ折り一枚。片面13行。「東山の当りに住居致者」のセリフ。最初の部分のみ。

タテ 122 mm × ヨコ 340 mm (片面)。半紙横折り。一枚。片面のみに記され、22行。シテのセリフのみ。セリフの初めに「シテ」と記す。太郎冠者が刀をとられ、シテが腹を立てているところ。

タテ 140 mm × ヨコ 197 mm。糊付け12丁。片面13行書き。役名朱。大蔵虎光本(転写本。正2)と同筆、同文。

タテ 120 mm × ヨコ 337 mm (片面)。半紙横折り。一枚。片面25行と23行書き。太郎冠者と伯父の会話の部分のみ。

タテ 142 mm × ヨコ 230 mm (片面)。半紙二つ折り。一枚。片面12、14行書き。「三本柱」との題の下に「二郎」とあって、次郎冠者のセリフのみを抜書きしたもの。

版印刷。朱で型付。「あんの山」「宇治のさらし」「鶺鴒」は黒のペン書きで、鉛筆にて型付。最後に「桜川」と「右近」の一節を黒のペンで記す。

タテ 245 mm × ヨコ 165 mm。表紙に「三人片輪」とペン書き。12丁。片面9行書き。表紙に「吉村」と署名。「三人片輪」はガリ

タテ 245 mm × ヨコ 168 mm (片面)。青色印刷の片面12行の野紙使用。二つ折り四枚。太郎冠者が伯父の所で酒を振るまわれているところ。青のペン書き。吉村嘉穂氏の手か。

タテ 145 mm × ヨコ 225 mm。仮綴。表紙なし。6丁。片面13行書き。虎光本と比較すると、「洛外」が「かたい中」になっているりする。伊藤源蔵の手か。

タテ 245 mm × ヨコ 168 mm。表紙に「墨塗」と墨書。10丁。片面8行書き。朱にて型付を記す。表紙左下に「吉村」と署名。

タテ 235 mm × ヨコ 160 mm。仮綴。5丁、片面10行書き。「釣狐 問答セリフ」と題す。

タテ 240 mm × ヨコ 160 mm (片面)。5丁分五枚。綴穴はない。片面10、13行書き。本文は途中まで。朱で型付。各丁、右上に番号を付し、「一」「五」とある。

- 188-84 15、吉村嘉穂筆「蟹山伏」
タテ 247 mm ×ヨコ 170 mm。二つ折り二枚。「福德」とある青色印刷の
部分のみ。 二枚（1曲）
- 188-83 14、「瓜盗人」（後半）
タテ 147 mm ×ヨコ 220 mm（片面）。4丁分四枚。片面13行書き。後半
曲。47と同筆。 四枚（1曲）
- 188-20 13、「瓜盗人」
タテ 240 mm ×ヨコ 165 mm（片面）。二つ折り一枚。片面10行書き。全
曲。47と同筆。 一枚（1曲）
- 188-16(□) 12、「靱猿小歌」
タテ 140 mm ×ヨコ 212 mm（片面）。2丁分二枚。片面13行書き、薄墨。
字体は4と同じか。 二枚（1曲）
- 188-29 11、「入間川」
タテ 250 mm ×ヨコ 170 mm（片面）。5丁分五枚。綴穴が一つずつあ
いている。片面14行書き。各丁、右上に番号を付し、「1」「4」とある。
途巾まで。各丁、右上に番号を付し、「1」「4」とある。 五枚（1曲）
- 188-24 10、「伊文字」（前半）
タテ 250 mm ×ヨコ 170 mm（片面）。4丁分四枚。片面14行書き。本文
途巾まで。各丁、右上に番号を付し、「1」「4」とある。 四枚（1曲）
- 188-82 9、「今参」（太郎冠者セリフ）
タテ 243 mm ×ヨコ 165 mm。青野紙。10行。太郎冠者のセリフ。一部
分のみ。 一枚（1曲）

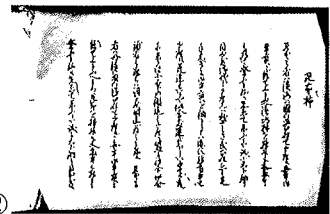
- 188-25 22、「腰折」
タテ 143 mm ×ヨコ 234 mm。仮綴。2丁。片面10行書き。「講社人名論」
と書かれた紙の裏を使用。本文は途中から。字体は4と同
じか。 一冊（1曲）
- 188-16(イ) 21、「腰折り」（後半）
タテ 143 mm ×ヨコ 234 mm。仮綴。2丁。片面10行書き。「講社人名論」
と書かれた紙の裏を使用。本文は途中から。字体は4と同
じか。 一冊（1曲）
- 188-85 20、「膏藥煉」
タテ 123 mm ×ヨコ 170 mm。表紙に表題。8丁。止め金具三個使用。
片面14、15行書き。各丁に番号を付し、「1」「8」とあ
る。最後に「早川修三」と記名。吉村嘉穂氏の手か。 ガリ版印刷本一冊（1曲）
- 188-8(□) 19、安部新七筆「木六駄」
タテ 150 mm ×ヨコ 230 mm。仮綴。表紙なし。5丁。片面9、10行書
き。2と同筆。 一冊（1曲）
- 188-99(□) 18、「狐塚小歌」
タテ 243 mm ×ヨコ 167 mm（片面）。片面10行の青色野紙。墨筆。「小
唄」と題して曳き物尽しを記す。 一枚（1曲）
- 188-99(イ) 17、「狐塚小歌」
タテ 185 mm ×ヨコ 310 mm。一枚。13行。朱で節付。「神の前には御し
め縄引、仏の前には善の綱引……」の曳き物尽し。 一枚（1曲）
- 188-21 16、「雷」
タテ 244 mm ×ヨコ 170 mm。雷のセリフを記した仮綴（3丁。片面7
、9行書き）と、医師のセリフを記した仮綴（3丁。片面
9行書き）の二綴に分かれている。ともにセリフの初めは
△で示す。 二冊（1曲）

(最初の半丁分が切り取られており、「昆布柿」から本文がある。)
墨付51丁。片面12行書き。9曲。)

〔写真②〕

イ、八句連歌、三人夫、悪太郎、因幡堂、悪坊、筑紫奥、萩大名、寶の槌、雁盗人、祢宜山伏

(墨付56丁。片面12行書き。10曲。)



②

この冊は「八句連歌」から三曲が虎光本「十四」に、「因幡堂」から四曲が「十五」に、「寶の槌」以下三曲が「十」に収められているものが記載されている。)

ウ、^(抹消)(鞍馬参)、(不明)、八尾、鎌腹、盆山、

引括、若市、水掛簪、鞍、鬪罪人、

(表紙曲名の最初二曲が抹消。墨付27丁。片面13行書き。「水掛簪」に題名を記した付箋が下に出るように貼られている。)

3、九番仮綴狂言台本

一冊(9曲)

タテ132mm×ヨコ228mm。仮綴横本。共表紙。表紙に所収曲名を記す。墨付56丁。片面12〜13行書き。字にふるえが見られるが、2と同筆か。詞章も虎光本とほぼ一致する。所収曲も2アと九番中七番まで重なる。

昆布柿、松脂、鍋八ツ撥、居杭、金津、惣八、伊文字、竹生嶋参、磁石

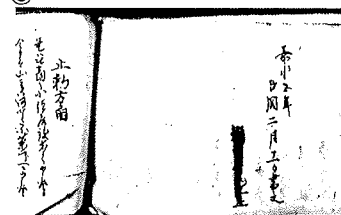
4、嘉永五年福田寿作筆五番綴狂言台本

一冊(5曲)

タテ140mm×ヨコ227mm。仮綴横本。表紙はなく、五曲の曲名が記された野紙(タテ88mm×ヨコ175mm)が付けられている。

「音曲簪」の最後に、「嘉永五年／子閏二月十一日書之／福田寿作忠正」と書かれ、名前は抹消されている。内容は虎光本とほぼ同じ。墨付40丁。片面12〜13行書き。

③



5、「井礪、蛭子大黒、武悪」

一冊(3曲)

タテ145mm×ヨコ233mm。共表紙。表紙右側に題名並記。墨付18丁。片面13行書き。1と同筆。虎光本と同一内容。

6、「抜殻、墨塗」

一冊(2曲)

タテ145mm×ヨコ233mm。仮綴。表紙なし。15丁。4と同筆か。最終丁に「水に見て月の上成木葉かな」などと別筆で書かれ、その後に「瓜盗人」の題名のみ見えて、本文が失われている。虎光本と同文。ただし、昭和49年寄託の大蔵虎光本(転写本。正2)の見せ消ち部分は、訂正されたものを本文に取り入れている。

7、「朝比奈」(シテセリフ)

一冊(1曲)

タテ248mm×ヨコ170mm。糊付け2丁。片面14行書き。朝比奈のセリフ。朱にてセリフの初めを△で示し、また型付を記す。細筆で安部新七の手か。

8、『朝比奈語り仕舞付・三段ノ舞仕舞付』

一冊(2曲)

鍋ハツ撥、蚊相撲、政頼、止動方角、宗論

(10曲。墨付67丁。片面12行書き。ただし、「宗論」のみは13行書き。表紙は、表裏ともにはずれている。題簽剥落。「宗論」のみ別筆。裏表紙見返しに「安部」とある。)

(六) 大黒連歌、北野参り、禁野、雷、拔殻

竹の子、文相撲、千切木

(8曲。墨付41丁。片面12行書き。仮綴。表紙はないが、裏表紙と思われるものと、「大黒連歌」の最初の一丁分が残っている。大きき、所収曲等から他の五冊と別にすべきものかもしれないが、虎光本「六」と最初の二曲が重なり、「一」から「五」があつて「六」に相当するものなので、あえてここに分類した。本来なら「禁野」「雷」は「十四」、「拔殻」は「七」、「竹の子」「文相撲」は「九」、「千切木」は「十」にあるべき曲である。「雷」「竹の子」は別筆。「千切木」は「サア／＼」發句を承ふで終っている。この続きの数丁は失われているが、その最後の部分と確認できるものが、昭和49年寄託の十番綴狂言台本(正4)の「鬼瓦」の最初の丁にある。つまり、十番綴狂言台本は、既存の台本から虎光本「十三」に当る狂言を切り取って寄せ集めたものといえ、新しい丁から始まるものについては問題ないが、同じ丁の表で前の狂言が終り、裏から始まっているものは裏のみを切り取り、同じ面に前曲の終り

188-6

2、安部新七筆仮綴狂言台本

三冊(27曲)

と新しい曲を記したものについては、そのまま綴じられている。「千切木」の終りと「鬼瓦」の最初が同じ面な訳で、188-12にあつた「鬼瓦」が切り取られ、十番綴狂言台本の方に綴じ込まれているのである。同様に切り取られ十番綴狂言台本に収められたと思われるものに、188-6の「腰折り」、188-8(イ)の「鞍馬参り」等がある。

クテ145mm×ヨコ227mm。仮綴横本。共表紙。表紙に所収曲名を二段に墨書。三冊とも同筆で、宮島の能の囃子方として活躍された泉盛夫氏が所蔵しておられる狂言伝書一冊と字体が一致する。泉氏所蔵伝書は狂言装束付、拔書、道具、風流、間狂言装束付等を記したものが、最後に「安政六年^末六月六日調之／但シ本書ハ佐伯助五郎持主／安部新七コレヲウツス」とあるので、この仮綴本三冊の筆者は安部新七と知られる。アもウも、もとは十番綴だったらしく、表紙の所収曲名は十番ずつ書かれ、アは最初の一曲(「腰折り」)、ウも最初の二曲(「鞍馬参」と、もう一曲が抹消されている。おそらく、この三曲は切り取られ、昭和49年寄託の十番綴狂言台本(正4)に綴じ込まれたものと思われる。各冊の所収曲は表紙によると次の通り。三冊とも虎光本と内容。

ア、(腰折り)、昆布柿、松脂、居杭、金津
 惚八、伊文字、音曲簞、磁石、瓜盗人

〔狂言台本〕

1、安政三年安部新七署名虎光本(転写本)「一」「六」六冊(58曲)

タテ 139mm × コ 224mm 「六」のみタテ 145mm × コ 232mm。紺表紙中型

横本。昭和49年寄託の安政三年安部新七署名虎光本(転写本)「十六」(正3)と同装丁、同筆で、一具の書といえ、虎光本「一」から「六」の転写本である。ただし、「五」の十曲目には「宗論」が収められ、虎光本「五」にあるべき「惣八」がない。「宗論」は「九」にあるべきものである。

また、「六」に相当する冊は、他の五冊よりやや大きく、所収曲も虎光本「六」と比べると、最初の二曲は重なるが、それ以下の曲は重ならず、その上仮綴であつて、「一」から「五」、また「十六」と事情を異にする。これらを考えるに、「十六」は大蔵八右衛門派独自の珍しい狂言を収めたものとして別格に考えて、いちはやく写し、後に「一」から順に写して行き、「五」の最後あたりから、何らかの事情で全冊写すのを断念したのではなからうか。各冊ごとの所収曲、丁数等は次の通り。

(一) 末廣かり、竹生島参り、祐善、素袍落、福の神

牛馬、栗田口、朝比奈、鏡男、花折

(10曲。墨付57丁。片面13行書き。表紙中央にタテ 80mm × コ 92mmの題簽があり、10曲の曲名を記す。表紙曲名は本文とは別筆。冊数番号なし。目録はなく、後人によつて表紙見返しにペンで所収曲名が書かれている。「末

188-2

廣かり」に鉛筆の書き込みがあり、また、「朝比奈」には朱で型付が記されている。一部役名朱筆。虫損あり。最後に「安部」と署名。)(写真①)

(二) 麻生、しひり、楽阿弥、三人片輪

米市、二人袴、入間川、不腹立、

栗焼、清水

(10曲。墨付66丁。片面13行書き。

タテ 77mm × コ 76mmの題簽に所収曲名と「二」の冊数番号を記す。最終丁に「安部新七正信」の署名があり、裏表紙見返しに「中へあべ」とある。中央に虫損あり。)

(三) 目近、いろは、二千石、吃り、骨皮

八幡前、昆布賣、鈍太郎、柿山伏、髭櫓

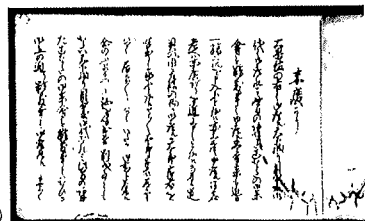
(10曲。墨付61丁。片面12行書き。題簽剥落。表紙見返しにペンで所収曲名が書かれている。裏表紙見返しに「安部」と署名。)

(四) 三本柱、文蔵、蛸、縄なひ、千鳥

雁厂金、口真似、御茶水、長光、空腕

(10曲。墨付62丁。片面12行書き。タテ 76mm × コ 75mmの白紙題簽。表紙見返しにペンで所収曲名を記す。朱注がある。「文蔵」「蛸」にはペンの書き込みがある。最後に「中へ安部」と署名。)

(五) 蛭子大黒、不二松、布施無経、右近左近、附子



郎、鍋屋孫兵衛、若狭屋三兵衛、若狭屋文五郎を狂言師として三人扶持で召し抱えているが、六人とも宮島狂言師山崎定五郎の弟子だったという。定五郎は安永8年（一七七九）7月27日没（A。Dでは「貞五郎」と記す）。天明2年（一七八二）2月27日に宮島狂言師山崎勇次が貞五郎と改名しており（『事蹟緒鑑』）、嗣子だったらしい。

また、享保年中に安部伴蔵、佐伯助三郎と共に狂言方を勤めた者に徳田好助がいたことが、野坂元定氏「厳島神社の神事と芸能」（『厳島民俗資料緊急調査報告書』昭和47年）から知られる。『厳島道芝記』に「神楽男」として佐伯助三郎らと共に名前の見える徳田善三郎は、好助の父でもあろうか。

狂言方だった人の多くは、厳島神社の社人として神楽男、国文役代等を勤める一方、宮島狂言師として神事に奉仕したものらしい。宮島狂言師は庶民の中から弟子をとり、技芸を伝えたと考えられ、山崎定五郎の例、また、『事蹟緒鑑』の安永3年（一七七四）5月18日の条に「宮島^{町人}狂言師片山幸次」といった記述があることから裏付けられる。

以上、知り得た宮島在住の狂言方について紹介してみたが、これらの人々を中心にして宮島の狂言が執り行われてきたのである。

前稿で、宮島の能は喜多流であり、金剛座付の大蔵八右衛門派が狂言を勤めることはおかしいとして、金剛座の影響もあったのではないかとしたが、これは私の憶測に過ぎないようである。浅野家は能大夫として喜多権左衛門を抱え、ワキには金剛座付の高安流を用いている。これは、表章氏が「北七大夫長能をめぐる諸問題（中）」（『能楽研究』第9号。昭和59年）で、「多年金剛座の役者として活動した七大夫の能のワキには、上掛りの進藤流や福王流ではなく、下掛りの春藤流や高

安流がふさわしく、金剛座付の高安がもつとも演じ易い相手だったと思われる」とされ、「ワキや囃子方は所属の座に捉われずに諸座・諸流の能に出演するのが室町期からの慣習であった」と説明されている通りの事情によるのであろう。狂言も同様の理由で、金剛座付の大蔵八右衛門派が用いられたものと思われる。江戸期を通して、宮島のシテ方は喜多流、ワキは高安流、狂言は大蔵八右衛門派といえる。囃子方については不分明ながら、笛は森田流、小鼓は幸流、大鼓は葛野流、大鼓は金春流と観世流の両流だったようである。

寄託資料の中には、中國新聞（昭和61年8月30日）、読売新聞（昭和61年8月31日）で報道されたように、大蔵八右衛門派を代表する狂言台本である虎光本（転写本。正2。原本は文化14年成立）と、それよりもさらに古い伊藤源之丞吉高本（正1）等が含まれており、狂言研究で立ち後れていた八右衛門派の芸質解明が出来るものと期待でき、資料的価値の高いものである。

凡例

一、前稿の凡例では紹介した文書を三四点としたが、正確には三四種七〇点とすべきであった。今回紹介するものは一三三種一五一点である。前稿は昭和49年寄託分、今回は昭和61年寄託分だが、前稿で落としていた二種二点（53と133）を加えておいた。

一、一三三種の資料を（狂言台本）、（新作狂言）、（狂言謡）、（間狂言台本）、（伝書、その他）に分類した。記載順序は、特に規準を設けていないが、所収曲数が一曲（または数曲）のものはアイウエオ順に並べておいた。

一、資料館の分類ラベル番号は、上部に記しておいた。

僧』の間狂言を勤めた「源兵衛」も、元禄15年（一七〇二）刊『厳島道芝記』に「国文役代 源兵衛」と見えるので、源之丞の祖父である可能性が強い。

源之丞の息子である芳蔵については事蹟不明であるが、伝書を遺わしたという八介については、『新修広島市史』第四巻に紹介されている、文化7年（一八一〇）4月24日太祖長政の二〇〇回忌がすんでからの城奥舞台での能の際に、演じた「薬水」を特に賞せられたという伊藤八助と同人であろうし、同書には、天保4年（一八三三）頃、狂言師伊藤八助の子八之助が両刀を帯びることを許された記事も紹介している。八之助は大蔵八右衛門派『習狂言』同問覚（正17）を宮島の岡部吉三郎に嘉永4年（一八五二）与えている。年代不明ながら厳島神社から「狐毛皮」を「射狸」用に借りたり（正31）、伊藤源之丞吉高署名間狂言台本の表紙見返しに貼付された目録に「此分書人目録 八之介」と記す（正14）。慶応4年（一八六八）頃の「役人帳」（『芸藩輯要』所収）に伊藤八之助は十三石三人扶持とある。八介と源之丞との関係は不明だが芸系は同じらしい。

伊藤源蔵は、天保2年（一八三一）『謡鏡』を写し、自分のことを「藝州厳島小公文太夫」と記している（正27）。また、伊藤源之丞吉高筆狂言台本（正1）の「鳴子小哥」に文政11年（一八二八）に小歌を追記している。天保5年（一八三四）12月10日没、瀧町（C）。源蔵は源之丞の子であろうか。同じ瀧町とあるのは、文久3年（一八六三）8月14日没の伊藤源之定（D）、慶応元年（一八六五）10月26日没の伊藤七五三（C、D）である。

他にも、天保7年（一八三六）に間狂言台本（正13。3冊）を筆写

した伊藤作吉、安政5年（一八五八）頃に安部新七に大蔵八右衛門派『狂言習』（119）を借した伊藤雄三郎などがある。

佐伯・福田家の人々など

安部・伊藤の他に佐伯・福田姓の人が寄託資料に見える。佐伯家も宮島狂言師の家柄だったようで、『事蹟緒鑑』に佐伯助三郎が安部伴蔵と共に享保2年（一七一七）、「宮島狂言師」として二人扶持を与えられている。また、同書の寛延2年（一七四九）正月9日の条に、「宮島狂言師 佐伯喜左衛門」が病死したので、彼に与えられていた切米・扶持方を他の狂言師に分与するように願っている記事がある。喜左衛門は寛延元年11月4日没（A）。天保8年（一八三七）以前に「狂言仕舞仕形附」（正10）を書写し、「狂言小舞」（正11）に署名のある佐伯助五郎忠顕については没年がはっきりしない。というのは、助五郎が何代かあったようで、文化14（一八一七）8月29日没（C）と、嘉永5年（一八五二）1月14日没（C）の二人の「佐伯助五郎」がいたことが過去帳から知られるからである。

福田家には嘉永5年（一八五二）に狂言台本（4）を書写した寿作忠正がおり、吉村氏の御教示によると、寿作・富吉（大正4年11月20日没）―茂（昭和41年9月2日没）と続き、三人とも狂言を演じ、茂は小鼓方も勤め、富吉は明治・大正大修理の際、鏡板の老松を描いたという。

寄託資料に名前が見えないが、宮島狂言師として知られていたのに山崎定五郎がいる。『新修広島市史』第四巻によると、浅野藩は宝暦9年（一七五九）10月26日、山県屋文次郎、長門屋与三郎、柄巻屋和五

年新七調之、大蔵八右衛門派『習言覚』（正17）にも「安政五年午二月新七調之」とあり、嘉永6年（一八五三）には「翁等の習い」（正26）、安政5年（一八五八）には伊藤雄三郎から借りて大蔵八右衛門派『習言』（119）を、安政6年には佐伯助五郎所持の狂言伝書（泉盛夫氏蔵）を写し、他にも年代不明ながら虎光本と同内容の仮綴狂言台本（2）、〈木六駄〉（19）等を筆写している。寄託文書の多くは新七の収集整理、筆写になると思われる。大蔵八右衛門虎光筆狂言台本（略称虎光本）の転写本等があるところから、芸系は大蔵八右衛門派と見て差し支えなからう。新七以前は伴蔵しか確かめ得ないのだが、おそらく代々「宮島狂言師」だったのではなからうか。安部家ばかりでなく、伊藤家も八右衛門派であり、江戸期の宮島の狂言は大蔵八右衛門派だったと推察できる。

十四代目の和一郎には子供がなかったようで、妻の甥にあたる人が後を継いでおられる。狂言の方は従兄弟の嘉穂氏が継ぎ、安部家伝来の能楽資料が嘉穂氏に託されたものと思われる。和一郎氏は、普段の日は厳島神社の案内係をしておられたとのことである。

伊藤姓の人々

寄託資料の中に伊藤姓の人が多く見られるが、御子孫の方が分らず、家系については不明である。ただ、高橋修三氏の御尽力により、伊藤源之丞をはじめ神能に携わったと思われる方々の没年、事蹟等の一部が判明したので御報告しておく。高橋氏が特別な許可を受けて調査されたのは、光明院過去帳（A）、光明院蔵旧神泉寺過去帳（B）、光明院蔵地藏院過去帳（C）、延命寺過去帳（D）の四種である。

伊藤源之丞吉高。生年不明。19歳の時、狂言台本（正1。17冊）を書写。安永7年（一七七八）、母没（D）。『事蹟緒鑑』の安永8年11月19日の条に扶持の加増に関する記事があり、また、天明3年（一七八三）10月16日の条に「宮島狂言師源之丞伊藤芳蔵」を三人扶持で召抱える旨記されている。泉盛夫氏蔵の狂言伝書の中に、寛政8年（一七九七）7月8日、弟子と思われる「喜知造」に対し、「八介に遣したる本の内ヲ写し、其方が本箱に此書無之候間、今朝かいどうくだり、桑の弓、鱸包丁致候が中々よろしく候間、暑サの内ほうびに写し遣した記事が転載されている。享和3年（一八〇三）1月7日没（C。Dでは「源之助」と記す）。高橋氏の御教示によると、『藝藩通志』の「孝義」の項に「伊藤源之丞妻とよ 源之丞は公文代といへる社人なり。とよ性温和にして晩年神を崇ぶことあつく、日々両宮に拝謁し、月々弥山にのぼり、国家の福祥を祈る。十余年一日のごとし。文化十三年十一月、賞あり」と見え、さらに、この記事を元にして書かれている『島のかをり』（昭和5年）の同項に「夫源之丞は公文代と云ふ社人であつた。元来源之丞は非常に奇行に富んだ人であつたらしく、又能をよくし、殊につり狐などは彼の秘伝として賞せられたものだ」と云はれて居る。其妻とよは……とあつて興味深い逸話が追加されている。

「公文代（国文大夫、小公文大夫）」について、吉村氏から厳島神社に聞いていたいたところ、神社の書記だったのではないかとのことである。確かに源之丞、源蔵ともに達筆である（正1、正27）。源之丞が公文代で狂言師であつたとすると、米倉利昭氏が「厳島神社演能記録」（『能楽思潮』昭34年11月）で紹介しておられる元禄3年（二六九〇）8月9日の土佐守様社参被遊候節之後祈禱目録御能のへ車

習いに見えたという。神能にも地頭としてよく出演され、また、囃子方として太鼓を打たれたこともあるそうだ。嘉穂氏のように自分の役ばかりでなく、他の役もこなした人は宮島には多くおられたようで、能全般にわたって一通りの知識・技術をもっていないと、島外からの来演者との舞台が勤まらないことが理由らしい。もちろん、それだけ人手不足だったことも想像できる。嘉穂氏は千歳・三番三、間狂言に堪能だったようで、嘉宏氏の演能記録調査によると、千歳12回、三番三19回、間狂言72回で、和一郎のそれぞれ1回、16回、40回に比べ出演回数で上回っている。狂言は嘉穂氏60回に対し、和一郎97回と逆転している(但し、明治8年から明治40年までの神能番組は散佚)。二人の出演回数は、他の狂言方より格段に多い。嘉穂氏は「関西以西で三番三を踏ませると自分の右に出る者はない筈」と口にされるほど三番三については自信を持ち、一家言を持っておられた。ある年(嘉宏氏の推察では昭和15年)の桃花祭神能に、東京から山本東次郎氏(則重。明治31年〜昭和39年)が来演し、その際、三番三の鳥飛びの所作をめぐって東次郎氏と嘉穂氏と議論になった。東次郎氏は「足をそろえて着地する」、嘉穂氏は「着地の前に足を前に出し、両足が同時に地に着かないようにして僅かな差を設けて片足ずつ着くべきだ」と互いに譲らず、わざわざ海岸まで鳥を見に行き、東次郎氏もなるほどと納得されたという。

嘉穂氏は自分の流派を「新大蔵流」と言っておられたとのことだが、大蔵流の中のどういう芸系に属しておられたのか判然としない。安部家の芸系は大蔵八右衛門派(大蔵流の分家。宗家は大蔵弥右衛門家)だったらしいが、明治の八右衛門家廃絶の後、安部政治郎が山本家、

茂山家のいずれかに属したのか、それとも八右衛門派狂言を守って独自の道を歩んだのか不明であり、従って嘉穂氏の芸系も判然としないのである。ただ、「新」と冠されたところを見ると、山本家が茂山家かのどちらかだったと思われる、東次郎氏のことを懐かしそうによく話されたとのことなので、山本家だったのかもしれない。昭和30年頃まで舞台を勤められ、昭和55年3月21日逝去、享年88歳であった。

安部家のこと

嘉穂氏に狂言を伝授した安部政治郎の家系について、嘉宏氏から安部家に問い合せをしていただいたところ、過去帳が残されており、安部家の歴代が次のように判明した。括弧内の年数は没年である。

- ① 憲二正明(寛永3年) ⑧ 源三郎正成(天明8年5月29日)
 - ② 理三郎正寿(寛文10年) ⑨ 欽二正之(寛政元年8月7日)
 - ③ 兵二正通(宝永7年) ⑩ 兵馬正則(文政7年7月22日)
 - ④ 一東正光(享保18年8月6日) ⑪ 茂三郎正寄(安政2年1月13日)
 - ⑤ 伴蔵正治(元文4年8月26日) ⑫ 新七正信(明治9年2月15日)
 - ⑥ 栄蔵勝茂(宝暦7年10月20日) ⑬ 政治郎正明(大正11年6月6日)
 - ⑦ 満清主膳(明和7年1月25日) ⑭ 和一郎正弘(昭和15年3月2日)
- 歴代のうち、五代目伴蔵正治は、浅野藩から享保2年(一七一七)11月12日に「宮島狂言師」として二人扶持を与えられている(事蹟緒鑑)。十二代目新七正信は、幕末から明治にかけて狂言役者として活躍し、明治7年の神能に政治郎と共に出演している。新七は狂言伝書の収集にも意欲的で、伊藤源之丞吉高筆狂言台本(正1)に「安部新七求之」、七冊のみ残されている虎光本の転写本(正3。1)に「安政三

宮島町立宮島歴史民俗資料館

吉村氏寄託能楽関係文書目録（続）

米子工業高等専門学校助教授

永井 猛

本稿は、昭和61年3月発行の『宮島の歴史と民俗』No.4に掲載した「吉村氏寄託能楽関係文書目録」の続編である。前稿で紹介したのは昭和49年12月に寄託されたものだが、その後、昭和61年4月に吉村嘉宏氏が海上保安庁勤務を終えて宮島に帰ってこられたのを機に、新たに多数の資料を寄託されたので、この新出の昭和61年度寄託分と前稿で落としていたもの（53と133）とを紹介してみたい。

寄託文書は、嘉宏氏の父・嘉穂氏の所持しておられたものである。

嘉穂氏は、厳島神社桃花祭神能の狂言方として明治・大正・昭和と長年にわたって活躍された。氏のもとには、江戸時代、浅野藩より「宮島狂言師」として扶持を与えられていた安部家、伊藤家等の文書が伝えられており、まとまった能楽資料として貴重なものである。嘉宏氏には文書の閲覧調査を御快諾いただいたのみならず、嘉穂氏のこと、安部家のことなどを初め多岐にわたって教えていただいた。また、学芸員の高橋修三氏には過去帳の発掘から、宮島及び広島県の能楽関係の文書収集、くずし字解説にあたっての御教示等、ひとかたならぬお世話になった。本稿が成ったのもお二人の強力な御助力の賜物である。

吉岡楨三館長以下所員の方々、厳島神社の野坂元良宮司、木谷昌光権宮司、福田道憲氏、桃花祭神能の囃子方として活躍された泉盛夫氏には貴重な資料の閲覧を許可していただき、種々の便宜をはかっていただいた。お世話になった方々に対し、厚く感謝の意を表したい。

なお、寄託文書を示す場合、本稿で紹介しているものについては、そのままの番号で示し、前稿のものは「正」の字を付して区別した。また、浅野家文書の『事蹟緒鑑』^{じせきよかん}は厳島神社所蔵の抄録写本に拠った。

吉村嘉穂氏のこと

吉村家は明治初め頃まで吉田屋という商家であった。嘉穂氏までは能・狂言の演者だった方はおられないようである。ただ、嘉穂氏の父・文次郎氏（昭和26年没）は、桃花祭神能の衣装監督を勤めておられる。狂言役者として舞台に立たれたのは、嘉穂氏と、弟の暢氏^{いさる}（明治31年〜昭和39年。66歳没）、武氏（昭和20年没）、五十畝氏^{いそは}（昭和3年没）の四氏である。嘉穂氏は明治25年の生まれ。母が、「宮島狂言師」の家系を継ぐ安部和一郎正弘（昭和15年没。75歳）の妹であった関係から、小さい頃より和一郎の父の政治郎正明（大正11年没）の指導を受け、五歳で〈靱猿〉の猿で初舞台を踏む。政治郎は狂言ばかりでなく、喜多流の家元の所に住み込んで能を習ったという。嘉穂氏も謡をやられ、師匠は三浦兵太夫信政という人であった。三浦兵太夫は明治16年刊の『広島諸商仕入買物案内記』^井「名所しらべ」に「喜多流仕手方」として名前が見え、桃花祭神能にも明治44年までの出演が確認できる。嘉穂氏は二十歳頃から謡の出稽古に五日市に出向いたり、島内の真言宗の龍上山西方寺宝寿院を会場に謡を教え、自宅にも一晚に七、八人の人が

編 集 後 記

『歴史と民俗』No.5をようやく刊行することができました。『年報』を合わせると八冊目になります。

今回も、永井先生の能楽関係文書目録を掲載させていただきました。これらの目録を通して、資料のもつ意味が明確になるとともに、個々の役者の事蹟や、江戸大蔵家などとの交流の中から宮島の住民が狂言の技芸を受け継いできたことなど、宮島における演能の実態が次第に明らかになってきました。

また、調査を進める過程でその範囲が拡がり、多くの方々の御協力を得ることができました。今後は、幅広く資料の収集整理を行ない、永井先生をはじめ、これらの方々の中から更に多くの知見が生み出され、その成果をここに収められるものと期待しています。

資料館・町史編さん室は、開設以来、それぞれ12年、6年を経過しました。この間、研究と展示、教育、保存をめぐる方法と内容などについて、多種多様な要請がなされており、これに応えるためには、組織的にも施設のにも課題が山積しています。長期的・総合的に考えなければならない時期にきているようです。

その意味で、資料館協議会委員、町史編さん委員会委員をその当初からつとめてこられた、岡田貞治郎氏、平山真栄氏が亡くなられたことは、お力添をいただいていただけに残念といわざるをえません。ここに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

宮島の歴史と民俗 No. 5

昭和62年 3月20日 印刷

昭和62年 3月30日 発行

編 集 宮島町立宮島歴史民俗資料館

宮 島 町 史 編 さ ん 室

発 行 宮島町立宮島歴史民俗資料館

印 刷 日本写真印刷株式会社

